

【実感評価】

意見・コメント集(上巻)

子どもたちとのグループインタビュー
PTA団体の評価
県民からのパブリックコメント
元教員の評価

平成18年9月7日

高知県教育委員会事務局

目 次

(上 巻)

上 巻	1 子どもたちとのグループインタビュー
	(1) 高知大学教育学部学生 P 1
	(2) 県立学校 3年生 [高知追手前高校、高知工業高校、高知北高校、高知盲学校] P 4
	(3) 公立中学校 3年生 (南国市立香南中学校、四万十市立中村西中学校、高知市立朝倉中学校、香美市立鏡野中学校) P 6
2 P T A 団体の評価	
(1) 高知県小中学校 PTA 連合会 P 15	
(2) 高知県高等学校 PTA 連合会 P 17	
3 県民からのパブリックコメント	
(1) 県民からのパブリックコメント一覧 P 34	
4 元教員の評価	
(1) 前高知市立大津小学校長 P 42	
(2) 前香南市立香我美中学校長 P 44	
(3) 前県立高知追手前高等学校長 P 46	
中 巻	5 市町村教育委員会の自己評価
	(1) 高知県市町村教育委員会連合会 P
	(2) 市町村教育委員会の自己評価 P
	6 教職員団体の自己評価
	(1) 高知県独立高等学校教職員組合 P
	(2) 高知県教職員組合 P
(3) 高知県教職員団体連合会 P	
(4) 高知教職員組合 P	
(5) 高知県高等学校教職員組合 P	
下 巻	7 個別課題についての専門家の評価
	(1) 高知県の学力実態と学力向上対策について (大阪大学大学院教授 志水宏吉) P
	(2) 高知県の学力実態と学力向上対策について (高知大学助教授 平井貴美代) P
	(3) 就学前の保育・教育について (大妻女子大学副学長 大場幸夫) P
	(4) 教職員の資質・指導力の向上について (上越教育大学教授 若井彌一) P
	(5) 特別支援教育について (高知大学教授 寺田信一) P
	(6) いじめ、校内暴力、不登校、中途退学等の教育課題について (東京理科大学教授 八並光俊) P
	(7) いじめ、校内暴力、不登校、中途退学等の教育課題について (島根大学教授 肥後功一) P
	(8) 高知県の子どもたちを取りまゝ教育の環境について (高知大学助教授 内田純一) P
	(9) 高知県の子どもたちを取りまゝ教育の環境について (早稲田大学人間科学学術院教授 前橋明) P

1 子どもたちとのグループインタビュー

(1) 高知大学教育学部学生

日時:平成18年7月12日13:30~15:30 場所:高知大学教育学部棟 参加者:高知大学教育学部学生(10名) 第2期土佐の教育改革フォローアップ委員 片山美弥子

【教職員の指導力について】

授業や教員の対応は変わったか。

変わった」・・・4人、「分からない」・・・6人、「変わらない」・・・0人。

小学校にボランティアでいっているが、私が子どもの時は一つひとつ、先生の指示があったが、今は、自分たちでやる勉強に変わってきている。

パソコン等の導入など教え方も変わってきた。

パソコン、インターネットを使用するなど情報が進んだ。また学校からのプリントの絵や図が変わり視覚的になった。

一方的な授業から、子どもたちに考えさせたり、子ども同士で導く授業になってきた。教科書もカラフルになったし、黒板に絵を張ったりもしている。

これまで個性的な先生や、意欲的な先生に出会ってきた、その印象が強く比較できない。

小学校4年生の時、自信のない先生にあたった、それが教育改革の時期に当たるかどうかは分からないが、中学校の時には先生の自信が出始めた気がする。

【授業の満足度について】

授業は楽しくなっているか

楽しいとの回答・・・6人

学習チューターをしていて感じるが、少人数制の授業やTTの授業が増え先生との対話の量が増えたことや、授業の選択が増えたことが原因かと思う。

漢字の学習が早く終われば、自分の調べ学習をしたり、社会科見学のあとも人形劇で表現したりするなど授業の形態が変わった。私たちの頃は感想文を書いて終わりだった。

体験学習(シーカヤック)やグループ学習(自分たちで調べまとめる)がふえた。

先生方は渋い顔をしていたが、下級生の地域学習が楽しそうだった。

私は私学出身だが、公立に通っていた弟の職業体験学習がうらやましかった。

数学のTTの授業に入っていたが、10年前の私の中学の時と同じ授業展開があつて非常に眠たかった。授業の種類が増えたのは良いことだが、基礎的な部分が大きく変わっていないのではないか。(先生によって授業の組み立てが変わっていない。)

分からないので、(楽しいか楽しくないか)手をあげなかったが、小学校では楽しい授業が増えているが、上級に行くほど楽しくなくなっているのではないか。上級に行くと進学等があつて、難しいのかもしれないが、楽しい授業を作る先生の研究(努力)を進めてほしい。このことは、大学で勉強するほど感じる。

中高になると、教員の授業研究も大変になる。、教師の力量に依存している部分があるのでは。

自由度の低い中高(進学等で)では、おもしろくなるのでは。実業高校の方がおも

しろいことができるのでは。

今も昔も先生によるのではないか。

小中共に、先生と仲良くやってきたので当時おもしろくないと思っていなかったので、比較できない。

児童養護施設の子どもと関わっているが、学校に取り残されたままの子どもが、まだまだいるのではないかと感じている。

生徒から聞く取り組みは大切だと思うが、長期的にみて取り戻すシステムができていないのではないか。中高で新しい物を取り入れることは簡単だが、落ちこぼれた子を取り込むことが大切になるのではないか。実際子どもたちと接して、学力に開きがあることに衝撃を受けた。少しの援助で授業に戻れる子はよいが、学力差が開くと現在のシステムでは無理なのではないか。極端な話、できないと前の学年とやればよいのではないか、一度立ち止まるとそこまでしないと無理なのではないか。

授業評価システムは、たまにやったが先生は相変わらずだった。

中学校は私学に抜けるので学力差ができるのではないか。

土佐市の学校で学んだ。人数が少なくても学力差はあった。しかし先生は熱心に取り組んでくれた。小学校から中学校へ入った段階できめ細かな指導をすべきだ。生徒一人ひとりにていねいな対応が必要だ。

県全体で学力差があるのではないか。郡部の方が学力が高いのではないか。市内、郡部の差は勉強が落ち着いてできるかどうかは課題では。

【学校の開かれ度について】

学校は開かれてきたか。どういう点で開かれたか。

開かれた」・・・4人、「分からない」・・・6人、「開かれてない」・・・0人。

私の小学校の時代は授業見学は年数回だったが、妹は月に1、2回決まってある。

教育実習での体験だが、参観日の保護者懇談会で「みなさん情報をください」と学校側が保護者に頼んでいたのが、開かれたのではないか。

子どもが感じるのは、学校のホームページぐらいか(学校生活の中に組み込まれた状況では分かりにくい)。新聞、TVニュースでの情報発信があるので、外の視点では分かる。

中学校の活動が小学校・地域とともにできた。(プルタブ集め等)

総合的な学習で、地域のことを学びそれを、地域の方に発表して交流した。地域の方に話を聞いたり、職業体験で地域で学び交流した。

外に向けては開かれてきた。

受験期になり、もっと勉強したいと感じたとき遅くまで、教室を開放して生徒の気持ちに答えてくれた。

中学では服装や持ち物が生徒の意見で変わった。高校ではクーラーがついた。ペットボトルの自販機ができた。

中学では制服が換わった。高校では、校則が厳しく、生徒総会でも意見が出せる雰囲気ではなかった。

子どもの意見を取り上げる、柔軟な対応があるかどうか。(内に開かれているか)

「はい」・・・3名、「ピントこない」・・・7名

実感として、ピントこない理由は何か

私の高校では服装指導が厳しかった。高校はネームバリューが大きい(学校の特色

や社会的位置付けを示している)。学校は自校のネームバリューに合った学生を作ろうとする。伝統を守ろうとする。なかなか、生徒の意見を学校全体の取り組みに取り入れる状況にはない。しかし、とくべつな状況が発生したときにはやるべきことをやっていく態度が学校にあるのではないか。生徒の活動を受け止める先生がいて、それにきちんと回答してくれるシステム(態度)がある。

子どもの意見を取り入れ話し合いをした例がある(生徒の意見により、給食当番について話し合った。)

私の学校(私学)は伝統を大切にしている学校だから、新しい物はとり入れがたがない。

もっと開かれた状況にするにはどうすれば良いのか

教員同士が協力しあう態度や関係を作ることが大切ではないか。若い先生に年輩の先生が不利な状況を押しつけるようなことがあるのではないか。

先生にとっても開かれた学校を作ることが大切では？

担任が1人で抱え込んで、困る状況がないよう他の先生が助ける体制を作るべきだ。

教員になることを志望していると思うがその動機は何か？

小中学校時代に巡り会った先生の影響。(9人)

【土佐の教育改革による変化について】

もっとも変わった点は何か

地域性(地域とのつながり)。南国市では農家・教育委員会・学校が一緒になり食育に取り組んでいる。人として大切な物を学べる場ができたことだ。

県民の意識が変わった。農協だけでなく、学校と関わり子どものことを考えることができた。学校という限定された場所だけでなく、県として全体で考えることができた。

教育は学校で教師だけがやるものから、地域・保護者と皆でやるものだと意識が変わった。これからも様々な意見を取り入れ続けていくことが大切だ。

保護者や地域に関心や協力しようという意識がでてきたのではないか。

変わっていないのはどこか

学校は管理しやすいように、事務的な部分は大人が決めている。(中学校ではトイレのドアの上下があいていた。)

もっと生徒の参画を進めるべきだ。学校全体という枠組みの中で生徒も人として対等に扱ってほしい。

中学校問題には学力が課題だ。

(2) 県立学校 3年生

日 時 :平成18年7月20日(木) 14:00~16:00	場 所 :教育委員室
参加者 :高知追手前高校、高知工業高校、高知北高校、高知盲学校(各校2名ずつ)	
第2期土佐の教育改革フォローアップ委員会委員 岩塚忠男 立川 涼 二宮久美	

【わかる楽しい授業について】

医学用語など難しいものが多いが、先生方は模型を作るなど工夫して熱心に教えてくれる。

前で先生が話すだけの授業はわからない。わからない所を提示してくれたり、生徒の関心を引き付けてくれる授業が、わかる楽しい授業だと思う。

専門の授業は、自分の興味があるからわかる。興味を持たせることが大切。

専門教科は、先生が本当にわかっていないと、生徒の自分たちにはわからない。よく勉強をして、きちんと理解をして、教えてほしい。

「わかりゆうか」などの問いかけをしてコミュニケーションをとってくれる授業がいい。

教師と生徒のコミュニケーションは大事。授業だけではなく、プライベートでも、場がアットホームな感じになってほしい。

生徒同士のコミュニケーションがよいことも、よい授業には必要。

自分のクラスには問題がある。学ぼうとしていない生徒の意識の改革も必要。

先生ばかりに求めるのではなく、生徒も変わらなければ授業は変わらない。

【キャリア教育について】

出前講義など、有効な取組で、勉強になる。

自分は総合学習を通じて、目標を見つけることができた。いいことだと思う。

【授業の満足度について】

わからない授業にもアンケートを取ってくれて、自分たちの言うように改善してくれたりするので、満足している。

生徒のアンケートを見ると、生徒が甘えている部分も多いと感じる。

【教員の資質 指導力について】

自分のことを「先生は…」という人が多いが、威圧的で好きになれない。同じ人間として「僕は」「私は」と言える人がよい。

明るい先生が第1条件。

自分の些細な変化などにも気づいてくれる先生がいい。

資質としては、生徒のことを思ってくれていると感じさせてくれる先生がいい。

挨拶など、誰に対しても心を開いている先生は、資質はあると思う。人には好みがあるから、先生は多様な方がよい。挨拶や思いやりは前提であり、それから指導力だと思う。

わかる、すごいと思わせる優れた指導力を持つ先生は少ない。大切なのはまず先生としての資質だと思う。

【教科の指導力について】

指導力のある教師とは生徒の考えを尊重して、的確なアドバイスを与えてくれる人。

次の時間までにわからなかった所を調べてくるなどの努力ができる先生がよい。自分

の失敗をきちんと認める先生は許せる。

わからないことを、すぐ教えてくれるのではなく、「自分で調べなさい」と生徒を突き放す姿勢も大事。

普通教科は複数の先生がいるからよいが、専門教科はその先生しかわからないので、教えることに自信を持ってほしいと思う。

できる子にはどんどん先にやらせて、できない子にはとことん付き合ってくれる先生がいる。他の先生も見習ってほしい。

生徒の実態に合わせてやってほしいという希望がある。

【開かれた学校作り推進委員会について】・・・学校内での活動について

開かれた学校づくりの生徒アンケートに、生徒に対する厳しい評価があった。生徒も変わらなければ授業は変わらない。

今年は授業改善について取り組んでいる。

生徒は、外に意見を言うよりも、内にこもる殻を作るためにエネルギーを使っている。大きな話になるが、親や、社会にも問題はあと思う。

盲学校は、閉ざされた環境にあるため、社会体験や、地域との交流を通じて、視野を広げることが大切だと思う。

生徒の意識改革をするのであれば、社会や、世界への意欲が持てるように小学生から動かしていなければならない。

【土佐の教育改革について】

同じ夜間の定時制では、茨城の方が進んでいると思う。職員室の開放など。

先生方の意識レベルは確かに変わってきていると思う。生徒の意識がどう変わるかが、問題。

教育委員会がいくら教育改革を掲げて頑張っても、子どもが変わろうと思わなければこれからも何も変わらない。子ども自身が変わろうと思える改革方針を考えてほしい。

(3) 公立中学校 3年生

《南国市立香南中学校》

日 時 :平成18年7月11日(火)16:00~17:00 場 所 :南国市立香南中学校 参加者 :香南中学校生徒会役員および各学年代表 計10名
--

【学校生活への満足度について】

入学したときは仲良くなかったが、3年間過ごしてだんだん仲良くなってきて楽しい。学校全体が明るくいじめもなく、毎日楽しく学校に来られるので楽しい。

何かを決めるとき団結できる。体育祭や文化祭など力を合わせてできる。

楽しい場面は、いろいろな行事があるし、協力してできるから楽しい。また、地域のいろんな所へ見学に行くことができ楽しい。(総合的な学習の時間等)

同じ学年だけでなく、上級生も含め、みんな仲良く話しやすい。

友だちとの行き違いはあるが、学校の人間関係は大丈夫だと思う。明るく楽しい。学級で話し合ったり、学級や学年で交流できる時間もあるし、大きな問題にはならないと思う。

2年生から、3年生が仲良く話したり、協力している姿を見て、いい学校だと思う。勉強して新しいことを学べることは楽しい。

部活動の時間が短く、もっと練習したい。練習すればもっと強くなれる。

友だち関係が難しい。ちょっとしたお互いの気持ちの行き違いや勘違いで、ケンカになったりすることがある。先生とも相談しにくい。

【授業への満足度について】

先生がおもしろい話をしてくれる。説明がうまくよくわかる。

先生の説明がわかりやすいし、質問すれば答えてくれるので、わかって楽しい。

先生の体験を交えて教えてくれるので楽しい。

たくさんのことを理解できるので授業が楽しい。

問題を考えて解けたら楽しいけれど、3年生になるとだんだん難しくなってきたので楽しくない。

机に向かい座って勉強するのは好きじゃない。勉強より体を動かす方がいい。

わかる授業は楽しいと思う。学校は勉強をするところだけど、あまり勉強をしたいと思わない。授業になると気が抜けたり、だらだらしてしまう。そうすると先生に怒られる。

難しい問題が出るともっと解きたいと思うけれど、説明を聞いたり、ノートをとるだけの授業はつまらない。

先生はわかる授業をするために工夫していると思う。

授業がわかったかどうか、先生に伝える機会はある。

授業のやり方や進め方について先生に要望できる。

【家庭学習について】

していない。

30分くらい

2時間くらい

自分で勉強するより、塾の時間が長い。

家庭学習は、1~2時間くらい、内容は、授業でわからなかったこと、テスト勉強など

復習中心。予習はあまりしない。
今よりもっとしないといけないと思っている。

【目的意識について】

建築士になりたい。父親の職業なので小さいときからみていて興味を持ったから。今している勉強は、高校進学のためだが、数値の計算や作図など、将来の夢に直接関係することもあると思う。
テレビドラマでみてかっこいいと思ったし、おもしろそうだと思ったのでインテリアプランナーになりたい。
サッカー選手になりたいので、今、一生懸命練習している。高校へ行ってサッカーをしたいので勉強する。
看護師です。ドラマでみてかっこいいと思ったし、人の命を救えることがいいと思った。小学校の頃から考えている。今の勉強は、看護師になるために役立つと思っている。

【授業のことや困ったことを先生に相談できるか】について】

あまり相談することはないけれど、何かあれば相談できる。
先生とは相談できる関係。
あまり悩むことはないけれど、悩みができれば友達と一緒に行って先生に相談する。進路のことを相談できる。先生は信頼できる。
相談すると先生に心配をかけたり、迷惑をかけてしまうと思ってできない。ほとんどのことは自分で解決できる。
勉強のことは相談できるし、日常の会話は気兼ねなくできる。けれど友達関係のことや親とのこと、自分の内面的なことについては相談できない。友達には相談する。

【開かれた学校づくりについて】

自分たちの目だけでなく、地域の方の視点で意見を言ってもらってとても参考になった。
自分たちでやりたいと思って考えたことに地域の方が協力してくれてよかった。
今の学校の活動を地域の人にわかってもらうことができよかったと思うし、自分たちも地域のことを知ることができてよかった。
少しずつを感じることがあった。たとえば、自分たちはできると思うことでも、大人から見ると危険だからしてはいけないといわれる。など

【フリートーク 生徒どうしの質疑・応答】

部活に入っている人は、今の部活の時間に満足しているか。

満足していない。

1, 2年生から見て3年生についてどう思うか。

立派だと思う

好意的に思う。

3年生は自分たちについて満足しているか。

団結力があると思う。

まとまることはできるが、一部の人は仕方なくやっている。特に、めんどくさがっている人を引き入れたい。

生徒会をやっていて、話を聞いてくれない人や協力的でない人がいる。その人たちには話をしてもわかってもらう努力をするが、我慢してもらうこともある。
3年生としての役割を果たせていないところがある。
頼りがいのある先輩ではないと思っている。でもがんばりたい。

《四万十市立中村西中学校》

日 時 :平成18年7月11日(火)16:00~17:00 場 所 :四万十市立中村西中学校 参加者 :中村西中学校生徒会役員および各学年代表 計10名

【学校への満足度について】

休み時間など友達と遊んだり、部活も楽しい。
休み時間に友達とおしゃべりすることや、いろいろと学んだりすることが楽しい。
友達と話したり、お弁当や部活動の時間も楽しい。
みんなとおしゃべりしている時や、授業中の班で話し合っているときも楽しい。

【授業への満足度について】

水泳で泳ぐときが楽しい。
好きな教科で勉強しているときが楽しい。
授業で先生の話が長く、自分たちがあまり発言する時間がない授業は楽しくない。
先生の話聞いても、よく理解できないときは授業が面白くない。先生の話が長いと、眠くなってしまう。
苦手な教科のときは、少しやる気がない。
授業で班活動があるとき、協力しない人がいると全体的に面白くなる。
班で話し合う活動をもっと取り入れてもらえば、授業が楽しくなると思う。
先生は、生徒の興味を引く物や話を、授業にもっと取り入れてもらいたい。
(生徒は)班活動のときは、もっと積極的に取り組むようにすれば、授業が楽しくなると思う。
先生の話が長い時は、授業が楽しくないので、先生はもっとわかりやすくまとめて説明してほしい。
わからないとき、質問したらていねいに教えてくれる。
質問にすぐ応えてくれる。
先生が、みんなの意見を聞いて、授業を工夫改善してくれているとはあまり感じていない。

【家庭学習について】

楽しいとは思っていない。
授業では、わからない所は先生に聞いて解決できるが、家庭で一人だとわからない所があっても先に進まないの面白くない。
普段の家庭学習ではあまり感じないが、テスト前の家庭学習ではわからない所ができてストレスになる。睡眠不足にもなる。
漢字や英語の宿題はページ数が学校で決められている。個人に任せて欲しい。
漢字や英語については、普段はよいが、テスト前にはそれはなくして欲しい。

家では、学校のように集中できず、他にTVとか音楽を聴いたりとかしてしまう。
漢字や英語の課題のページ数を限定しないようにすればいいと思う。
家で一人でやっていてわからない所がでできたら、ITとかで先生とやり取りして解決できるようにすることができればいい。

【目的意識について】

目標をもって学校生活を送っているとはあまり思っていない。
(大きな目標は)特にはないが、県総体(部活動)で勝ちたい。それが済んだら受験勉強を頑張ろうと思っている。
成績をもう少し上げたい。部活動でもいい成績を残したいと思っている。
勉強も部活動もやるからには、いい成績を残したいので、目標をもったほうがいいと思う。
成績は1年生の頃に比べると下がってきたので頑張りたいし、部活動は引退までの1日1日を大切にしていきたい。

【悩みや困ったとき、気軽に先生に相談できるか】について】

先生にはあまり相談しない。
悩みや困ったことは、親しい友人に相談する。相手(友人)もすぐに応えてくれる。
先生に相談するより、友達の方がいいやすいし、それで解決する。
先生に相談しても、いい答えが返ってこない。友人の方が真剣に考えてくれる気がする。
先生に相談するとすれば、テスト前の勉強の仕方とか、高校受験のこと。
好きな先生はいるか
いる。話しやすかったり、普通に話せるし、授業も楽しい。
授業で興味のわく話をしてくれる。また悩みを相談したときにも、自分の将来のためになる話も助言してもらえた。
話を長々とする先生は好きではない。授業中に眠くなるし、どこが大切なところなのか分からない。
生徒が意見を言っても聞いてくれない先生は好きではない。
障害者に対する理解ももっと進めて欲しい。

【開かれた学校づくりについて】

開かれた学校づくり推進委員会(渡り会)の委員には、生徒会長・副会長(計3名)がなっている。
地区の会長さんも推進委員で、登下校のときには不審者から僕たちを守ってくれたり、その他にも僕たちの知らないところでいろいろと大人が頑張ってくれている。
開かれた学校づくり推進委員会(渡り会)では、地域の人や小学校の児童会の人も集まり話し合ったり、交流をしている。自分(生徒)たちのことを考えて、大人たちが活動してくれている。
地域の人と交流できてよかった。これからも続けていきたいと考えている。
今まで生徒から学校や先生に意見を言ったことは少なかった。中1の頃、体操服のことで要望を出したが、答えが出たのが最近だった。もっと早く答えを出して欲しい。
学校の指定ぐつでは、中に水が入ってくるので変えて欲しいと要望を出したが、すぐ対応してくれた。

意見を聞いてくれないときは、学年や生徒全体で団結すればよいと思う。
意見を聞いてくれるまで、ねばり強く先生に訴える。何度もアピールすればよいと思う。

高知市立朝倉中学校》

日 時 :平成18年7月19日(水)10:00~12:00	場 所	高知市立朝倉中学校
参加者	朝倉中学校生徒会役員および3年生の希望生徒	計10名

【学校への満足度について】

学校生活が楽しいと感じているのはどのような点か。

皆で協力してできるので、部活動が楽しい。

友だちと一緒にいると楽しい。

授業の内容がわからないときは楽しくない。

学校生活が楽しくないと感じるのはどのような点か。

授業とは関係のないところで、時間を費やしてしまうとき。

将来の高校のことを考えるとつらくなる。

話し合いで、生徒と先生の意見が合わないとき。

先生の教え方がまずいと思うとき。

人間関係のトラブルや行き違いがあるとき。

授業が楽しくないと感じるのはどのような点か。

ずっとノートを取ったり、問題ばかり解くとき。

質問しても先生が十分に対応してくれないとき。

授業が楽しくなるためにはどうしたらよいか。

皆で勉強に取り組める授業、生徒の活動を取り入れた授業にする。

教科書の内容そのままではなく、応用力がつくような、もう少しレベルの高い内容も取り入れる。

ただプリントに取り組んだりノートを書くだけの授業ではなく、教え方の工夫をして欲しい。

重要なところがもっとわかるようにして欲しい。

先生は皆さんの意見を聞いて、授業を工夫 改善してくれるか。

先生が、授業に冗談を交えてくれたりする。

難しい質問等に、例え話を交えながら説明してくれるのがよい。

授業を工夫しようとしているが、あまりできていない先生もいる。

【「悩みや困ったとき、気軽に先生に相談できるか」について】

【「悩みや困ったとき、気軽に先生に相談できるか」について】

勉強の相談はできる。

悩みは十分相談できていない。

好きな先生はいるか。また好きな理由は、

叱るところは、甘やかさずにきちんと叱ってくれる先生。

自分のことに真剣に向き合ってくれる先生。

自分にあった教え方をしてくれる先生。
先生の業務外と思うところでも向き合ってくれる先生。
けじめをきちんとつけてくれ、自分を個人としてみてくれる先生。
ただおもしろいだけでなく、きちんと注意もしてくれる先生。
好きでない先生はいるか。また好きでない理由は。
授業がうまくない先生。
生徒の言うことを信じてくれないとき。
その日の気分で授業をするとき。
授業の内容がいつも同じで、生徒の様子を見ないで授業を進める先生。
自分の理論だけで生徒を見て、それに当てはめようとする先生。
すぐ怒ったり、小さいことでも皆の前で大声で怒るとき。
自分は先生の指示をよく聞くとわかっていて、先生の意見ばかりを聞かされるとき。
やるべきことはやっているけど、工夫がない先生。

【目的意識について】

小学校のときは夢や目標がたくさんあったが、現実が分かってきたこともあり中学校では部活動や勉強で何がしたいのかわからない。
目標は持つが、すぐにあきらめてしまうことがある。
具体的に考えてない。
スポーツなどで以前は目標を持っていたが、周りが自分よりできたりするので、自信がなくなってきた。

【開かれた学校づくりについて】

開かれた学校づくりについてどう思うか。
意見を伝える場があるのはいい。
することで何かが改善されるのならやる価値はあると思う。
活動を知らない人がいるので、皆が知るようにして、広く意見が聞けるようにするといい。
もっといろいろな人から意見が聞けるといい。
学校生活の改善点はどうか。
エスケープする人がいるのでなくす努力をしていく。
今以上に仲の良い学校にしていきたい。
皆がそれぞれの目標に向かっていけるような学校にしていきたい。
一人ひとり性格が違うのであわない部分はあるが、お互いにカバーをしてやっていきたい。
生徒全員が高い意識を持って、さらに深い考えができる学校になったらよいと考えている。

香美市立鏡野中学校》

日 時 :平成18年8月2日(水) 13:00~ 15:00 場 所 香美市立鏡野中校
参加者 鏡野中学校 生徒 7名(生徒会執行部 5名 3年生代表者 2名)

【学校に対する満足度について】

休み時間などに友だちと話をしたり、遊んだりしたときが楽しい。
好きな授業を受けているときや、部活をしているときが楽しい。
部活など、みんなで協力して友だち同士、先輩 後輩関係なく友情が深まり団結力が高まったときが楽しい。
先生にほめてもらったり、認めてもらったりしたときが楽しい。
勉強や部活で伸び悩んだときは楽しくない。
自分がストレスをかかえているとき、学校へ来ても楽しくない。

【授業への満足度について】

授業は楽しいか

わからない問題が解けたとき。
友だちに教えてあげたときに「ありがとう」といわれたとき。
基礎から応用へ発展して、問題が解けたとき。
みんなが「勉強するぞ」という気持ちを持って臨めばもっと楽しくなると思う。
先生が一人で授業をすすめたり、話を聞いてくれないとき。
内容が理解できていないのに先生が先にすすめたとき。
先生の話ばかりで、教科書にそってすすめるだけの授業のとき。

授業の進め方について(先生に要求したいことは)

- みんなが発表や体を動かしたりして、みんなが参加できる授業。
わかっている人、わかってない人が分かれて授業をするのではなく、共に学んでいく授業で、次へすすむことを大切にしてほしい。
- ・ 私語、寝ている人を起こして、注意してみんなで、まじめに取り組んでいけるようにしてほしい。
- 先生で黒板の文字が見えないので寄ってほしい時がある。書いてある文字がわからない時がある。
説明や話すスピードが、速かったりする時がある。
ノートを写し終わっていないのに消される時に、「待つて！」と言っても、「書くのが遅い！」と言われることがある。

家庭学習について

学校の勉強以外に一生懸命頑張れば、将来の自分のためになると思って取り組んでいる。
一人で勉強していると「できたね。」という言葉かけがないので、本当に実力がついていないかわからない。
めんどくさいし、あまり勉強が好きではないので進んでやらない。
学校でも家でも勉強するのは嫌だ、しんどい。
課題を提出しないと成績にかかわるからやっている。
3年生だから課題を提出しないと進路等にかかわるからやっている。
やらないといけなけれど、好きなテレビがあると先に見て、気持ちを切り替えてやって

いる。

眠たい時や、やる気がない時は思い切って休んで朝早く起きてやるようにしている。

【目的意識について】

目標をもって学校生活を送っているか

将来の夢、志望校に入れるように。

友だちのためになるように、いろんな人と関わって心を変えていきたい。

部活で上位入賞、全国大会へ。全国トップに！

今の学校のことやクラスみんなのことを考える。友だちの長所を見つけ、伸してあげたい。

【「悩みや困ったとき、気軽に先生に相談できるか」について】

どんなことが悩みか

夏休みの宿題が大変！

女子の中での友だち関係

進路 親 家族 部活のこと

悩みや困ったとき、気軽に先生に相談できるか。(なぜ相談しやすいのか)

辛そうな時とかに、ひと言葉をかけてくれる。気遣いをしてくれるから。

相談をしたらヒントや解決方法を見つけてくれたり、答えをいってくれる。

ちゃんと相談したら、先生の経験を生かしてアドバイスしてくれる。

喧嘩をしたとき、仲をもってくれたから。

悩んでいるとき自分の納得する答えをくれたから。

【開かれた学校づくりについて】

学校や先生は、意見や希望を聞いてくれるか

昇降口に時計をつけてくれるよう要求したらつけてくれた。

グラウンドの照明、部活動に必要な道具を要求したら先生がきちんと聞いてくれて要求が通った。

生徒会から要求したことを学校が聞いてくれ、すぐに対応してくれた。(冷水器 水)

(参考 :各中学校の取組の概況)

南国市立香南中学校

香南中学校では「生きる力を培い共に行動できる心豊かな生徒の育成」という学校教育目標のもと、生徒の自主性を重んじた教育実践に取り組んでいる。教科指導の面では英語教室の設置や香南中に配置されているALTの効果的な活用などにより生徒たちの英語力は年々向上している。

また生徒会活動では、教職員の手を借りない自主的な運営が大切にされており、16年度の生徒会の提案から始まった「空港地下道清掃ボランティア」などの取り組みが評価され、昨年度は高知県児童生徒表彰を受賞した。生徒会の自主的な運営は、学校生活に活気をあたえ、部活動においても、ここ数年、男子バレー部をはじめとする多くの部が県大会で活躍している。

四万十市立中村西中学校

中村西中学校は、校長先生が民間人校長として3年目を迎え、2学期制の導入や生徒たちによる自主活動の推進・充実を図っている。学力向上はもとより、一人一人の心を大切にしながら、教職員・保護者・地域が一体となって心身ともに健全な生徒の育成に取り組んでいる。

学校では、仲間づくりに重点をおくとともに生徒が互いに切磋琢磨できる場面を意図的・計画的に設定したり、四万十川の自然を取り入れた体験的な学習の充実に努めている。これらをとおして、生徒の基礎・基本の定着や学力向上を図り、「やる気(自主)、責任(厳しさ)、友情(思いやり)」をキーワードに、自己実現を図るための能力や態度の育成に全教職員が一丸となって取り組んでいる。また、わたり会(開かれた学校づくり推進委員会)の取り組みとして、校区の具同小学校・家庭・地域と協力し、校区内の清掃活動など地域ぐるみでの取り組みを行うことで、生徒自身の地域の一員としての自覚も一層高まりつつある。

高知市立朝倉中学校

朝倉中学校は、これまで伝統的に取り組んできた人権教育の充実をはじめとして、学習チューターなどの大学生や学校図書館における地域人材の活用、2学期制のモデル実施など、学校を活性化する多くの取り組みを行ってきた。教職員は、日々の授業の中で生徒たちにかかわりぬき、基礎基本を定着させ、一人ひとりの能力を伸ばさせていくよう「認め」「励まし」「把握し」「伸ばす」授業づくりを目指しており、教職員は教育改革に対する意識を高く持ちながら、特色ある取り組みを行ってきた。

また、生徒や保護者の思いや意見を大切にしている取り組みに努めてきた結果、生徒が自分の意見を出しやすい状況になってきた。

香美市立鏡野中学校

鏡野中学校は、研究主題を「人を大切にする生徒の育成、その考え方と実践の基礎を育てる。仮説・仲間づくりが意欲を育み、学力向上の基礎となる」とし、「自分を大切にできて人を大切にできる生徒」の育成を目指している。昨年度から2学期制を導入するとともに、少人数指導・習熟度別学習の導入、選択履修の幅の拡大など、基礎学力の定着を図るための取り組みを行っている。また、教職員は、個々の生徒理解に努め、学習面はもとより学校生活全般にわたって、一人一人の生徒を大切にしている指導をしている。その結果、生徒は学習に意欲的に取り組むようになり、生徒会活動や部活動に対しても従来にもまして積極的に取り組むようになってきた。

2 PTA団体の評価

(1) 高知県小中学校PTA連合会

【教育改革以前の状況と課題について】

1996年の「土佐の教育を考える会」の答申を受け、「土佐の教育改革」がスタートした以前の学校は、教員の不祥事(体罰・飲酒運転など)や指導力不足、資質の低下などさまざまな問題点が指摘されていたところであり、「子どもたちが主人公」という状況にはなかったのではないだろうか。

また、学校は概して保護者や地域に対して敷居が高いところという感があり、ともに協力して子どもたちを育てていこうとする努力に欠けていたように思われる。もともと地域のものであったはずの学校が、独自の学校運営を行い、保護者・地域への情報発信・情報交換を十分に行っていなかったために、地域と離れた特殊な場所になってしまい、教育に地域の声が届かない状況にあった。核家族化にともなう地域コミュニティの崩壊もあり、地域のつながりの希薄化、教育力の低下が目立ち、地域ぐるみで子どもたちを育てようという意識も薄れてきていた。

さらに、社会情勢や環境の変化により、子どもたちに新たな問題(いじめ・不登校・校内暴力など)が現れ、保護者も子どもの変化にとまどうだけで、保護者同士が互いの状況を理解しあうこともなく、また家庭と学校の相互間にもコミュニケーション不足による不信感さえあったように思う。PTA活動への無関心、多忙を理由に役員不足といった傾向もみられ、そのような状況でのPTA活動は、学校のサポーター(下請け団体)として学校の都合に合わせた活動となっており、PTA行事と言いながら一部の関心ある保護者の集まりではないかと感じるほどであった。

【課題解決のための県P連の取り組みと効果について】

学校と保護者のコミュニケーションを深め、問題意識を共有する必要性から、2000年度より、県校長会との懇談会を定期的で開催し、それぞれの立場からみた学校教育・家庭教育等について理解・連携するための積極的な意見交換を行っている。

また、PTA役員として、開かれた学校づくり推進委員会への積極的参画と意見提言を行う等、学校・地域・教育行政に対するPTAの位置づけをサポーターからパートナーへと変革する努力をしてきた。

そして、保護者に対しては、教育講演会を開催するなかで「子どもたちの基礎学力の定着と向上」には学習以前の問題として、基本的な生活習慣の確立・定着が重要であるため、子どもだけでなく保護者も含めて生活スタイルを見つめ直し意識改革をする研修を行っているところである。

【教育改革の成果について】

長い間、有名大学へ合格するためには私立中学校へ入学するのが近道といわれ、小学校からの塾通いが多く、進学も私高公低の状況が続いていた。しかし、「土佐の教育改革」以降、公立高校の国公立進学率が伸び、(それが全てではないにしても)子どもたちの基礎学力の定着と学力の向上は着実に進んでいることは評価できるが、いまだに、いじめ・不登校・落ち着いて授業のできない状況等は残念ながら解消されてはいない。

学校は、「開かれた学校づくり推進委員会」の発足により、ずいぶん風通しが良くなったと感じる。しかし、まだ問題点を情報として伝える方法が未熟で、学校・家庭・地域の情報交換が一方通行になる場合や、話し合ったことが具体的に生かされていないなど、形骸化しているところもあるように思われる。積極的に「開かれた学校づくり」を進める学校と、そうでない学校との格差がいろいろな面で広がっており、当たり前のことだが、積極的に進める学校の方が成果を上げているように思う。

教員は、個人により多少の温度差はあるかもしれないが、さまざまな研修に積極的に参加するなど、意識改革も徐々に浸透してきており、資質・指導力の向上に努めてくれていると思う。学校評価の実施が、学校・教員の意識改革につながったのではないだろうか。反面、広域人事交流により、遠距離通勤の教員が増えたことで、PTAや地域行事への参加が減少し、地域の生の情報を収集できる場を活用しきれていないのではないかと思う。

PTAと地域の連携は進んできており、地域ぐるみで教育課題を共有する段階から、おとなが行動する段階へと移り、みそ汁運動やノーテレビデー運動等の取り組みが広がってきている。

市町村教委は、それぞれの市町村の各学校をバックアップして「土佐の教育改革」の達成に向けて努力していることを実感するが、大半の保護者は、教育改革10年の意味も理解できていないことも事実である。

【残された課題について】

CRT結果は、一応の成果を示してはいるが、全ての子どもたちの学力や意欲を高めきれてはいないと感じる。学校評価等、さらに各学校で検証し一層の授業改善に取り組んでほしいと思う。また、公立学校の授業に対する信頼感が薄れ、塾通い・中学受験が一層激しくなっている状況からも、公立学校の努力をもっとアピールする方法を考えてはどうだろうか。

さらなる学力の向上のためには、教員や学校への意識改革、授業改革を求めるだけでなく、保護者も自らの家庭教育力を培う必要性を求められているが、年々、家庭教育力が低下し、以前は家庭で行っていたことまで学校に期待するようになってきた。保護者の変容にも個人差、学校差、地域差があるとは思いますが、自分の子どもにしか関心のない保護者が増え、PTA活動に対する意識も低下してきている。

また、これまで学校と地域をつないでいた地域教育指導主事の派遣が終了した状況のもとで、地域の教育力を低下させないためにも、その役割をどのように継承していくのが課題ではないだろうか。

【平成19年度以降の県P連の取り組みの方向性】

子どもたちの生活環境・生活スタイルの見直し・改善を推進するとともに、保護者の生活スタイルも見直すため、学校とPTAが連携して家庭教育をサポートしていかなければならないと思う。

また、子どもを取り巻くさまざまなことに、県P連だけで問題意識をもち取り組むのではなく、保・幼から高校までが連携し繋がりのある活動、つまり、県内の子どもをもつ保護者総ぐるみの活動に広げ、保幼小中高PTA連合体連絡協議会として、それぞれの組織のネットワークを強化する必要があると考える。

【県P連から見た県教育委員会の取り組みに対する評価】

全県的視野に立ち、「土佐の教育改革」の実現に向けて、人的・財政的資源を各地に配分したことにより、30人学級の実現や教科別の少人数指導など、基礎学力定着のための政策や、教職員団体との関係改善、教員採用・15年次研修等に保護者も参加できるようになったことは評価できる。また、地域教育指導主事の派遣についても、学校と地域のパイプ役となり成果を上げたと思う。そして、子どもたちの生活スタイルについての調査は、保護者に結果の改善のための取り組みをすすめ、家庭の教育力アップにつながったという面において効果があったと思う。

ただ、授業評価システムの活用は、教員の意識や学校の取り組みによる格差が出ており、有効に活用しきれていないのではないだろうか。

PTAに対しては、定期的・全県的な教育懇談会を実施することで、地域ごとの課題について積極的に意見交換が行われるようになったことや、何よりもPTAをパートナーとして認識し、その重要性を理解してくれていることを強く感じる。

「土佐の教育改革」は、「子どもたちが主人公」を合い言葉に、それぞれの立場での意識改革であると考えられる。しかし、改革と言いながら学校や教員の評価だけが先走りするのでは、教育は硬直してしまう。「土佐の教育を考える会」の答申を受け、高知の教育を何とかしようではないかという思いから、教育委員会や教職員団体、保護者が話し合い、取り組みを始めたことは革新的なことであった。

どの立場、いつの時代でも、子どもたちにつけたい力やしあわせを願うのは同じである。10年間の取り組みが打ち上げ花火で終わることのないよう、これからの姿勢・活動が重要視されてくるのではないだろうか。

(2) 高知県高等学校PTA連合会

保護者から見た「土佐の教育改革」

二宮 久美

学校が良くなる！」「何かが、きっと変わる！」との大きな期待をもって保護者達を捉えた「土佐の教育改革」スタートのニュース。

あれから10年、学校は、子どもたちはどのように変わったのでしょうか。第二期土佐の教育改革では、第一期の検証を受け、どのような進歩を遂げたのでしょうか。そして、「子どもたちが主人公」を合言葉に「学力向上」という保護者にとって魅力的な目標を掲げスタートしたこの取組み。「県民総ぐるみ」で取り組むべきこの一大プロジェクトに県民はどう反応し、どう動き、どう関わっていったのでしょうか。

私ども高知県高等学校PTA連合会(以下高P連)では、土佐の教育改革を振り返る10年にあたって、特に第二期の五年間について高P連の組織としてどう関わってきたか振り返ってみました。

当時の高校のPTA組織は、会長や役員といってもあまり目立たない、学校のお客様の存在の活動をしている単Pも多く存在していました。小学校や中学校と比べると校区も広く、横の繋がりも希薄なために小・中の役員のように、毎月・毎週学校に足を運び、

学校のパートナーとして活発に活動している単Pはごく僅かでした。会長の意識も「土佐の教育改革」という言葉「運動だけは知っている」と言う会長から、幼稚園からPTA一筋という超ベテラン会長まで、知識や経験の差は大きなものがありました。

そこで、同じスタートラインに立ち子ども達を見守っていかうと「単P会長会」を平成13年度から開始しました。

各単P会長が始めて集う「第一回会長会」は、県教育委員会事務局から教育政策課をはじめ、各課の方々に出席をいただき「土佐の教育改革」の「いろは」から県の取組みの進捗状況等について学ぶことから始まります。この勉強会は、県民ぐるみの取組みである「土佐の教育改革」について理解し合い、その知識を今後の各単P活動に生かしていくためのものであり、そのためにはまず会長自身がこの改革の内容を理解し、役員・委員は勿論のこと一人でも多くの保護者達に伝え、協力し合って自分達の出来ることを見つけていく基礎になればとの思いがありました。

第二期に入り学校・家庭・地域の連携の強化や、保護者、家庭の教育力の向上の必要性が打ち出され、ますます保護者としてこの改革に本気で取り組んでいかななくてはならないとの思いを強くしました。多くの活動や提案が「絵に描いた餅」であってはならないし、「誰かがやってくれるもの」でもない、自分達に関わらなくてはとの強い思いは、今日までの高P連としての活動を支える原動力となってきました。

高P連では、この10年間の取組みの評価の時期にあたり「単P会長から見た土佐の教育改革」についてと題し、単P会長48名に対しアンケート調査を実施しました。

このアンケートでは、「土佐の教育改革」に対して、
「土佐の教育改革」全般について
あなたの学校で行っている「学校評価」について
の2項目に絞り意識調査を行い、最後に記述式でそれぞれの考えを述べてもらう形式をとりました。以下、そのアンケートから抜粋して纏めました。

土佐の教育改革全般について

1「学力」

「土佐の教育改革」の大きな柱である「学力の向上」についての取組みに対しては、行政・学校それぞれの努力に対し、評価している保護者も数多くいる一方で、開かれていない学校の現状や全県的な学力のレベルアップに対して疑問の声も聞かれます。校長のリーダーシップや教員の体質に対しても力量「変化を期待する」との声もあり、教員の「学力向上」に向けての意識改革や価値的な研鑽と努力を期待したいと思います。

2「土佐の教育改革の広がり」

地域によっては、地域の方々の力を借りることに成功し、保護者も大いに勇気を得て、画期的な活動を展開している学校の姿があります。県教育委員会とPTAの連携は強化されたと評価する中、一部の県民にしか浸透していない「広報不足」また、知っていても、本音で語るべき問題点や疑問点を語るための時間や場所の設定等に学校側の配慮が見えないと言う意見もあります。

3 「PTA」について

同じ学校の中で「保護者」との連携を口にしながらも、PTAを保護者の組織と勘違いしている教員も未だに存在し、分掌が違つたとまったく関わりを持ちたがらない教員が多くいることを訴える意見もある一方で、保護者自身の意識改革をする必要を感じているという思いも出ています。しかし、5年前と比較して、PTA活動に対して大きな理解を示し、積極的に連携を取り合い、地域に向かって活動の輪を広めていこうとする学校も確実に増えたと喜ぶ意見も出ています。

4 「家庭・地域の教育力向上」

学校と保護者の協力体制が功を奏し、地域の方々の学校への「関心」は高くなってきていると感じている意見が見られます。また、学校は頑張っているとの評価もあります。その一方で再生・向上に対して、不満の声を上げている意見もあり、地域として学校を応援したいと思っけていても、学校側がそれに向けて動こうとしていない、意思疎通が不十分、学校長の意識・情報発信能力に疑問等の厳しい意見もあります。

5 「県教委の対応」

県教委の取組みに対しては、保護者の意見を聞こうとする姿勢やPTA活動への支援に対して評価する意見があり、保護者を巻き込んでの教員採用試験や教員研修等の開催は高く評価しています。その上で、合格者の決定にあたっては、地域・家庭が本当に求めている教員を見抜く力を養うことへの期待も大きいものがあります。

6 「成果・効果に対する評価」

土佐の教育改革に対する成果・効果をどのように評価しますか？との質問に対して、教員の意識や態度が以前に比べて、より向上したとの評価がある一方で、県教委・地教委・学校・PTA・地域の連携・情報の相互交流の足りなさを指摘する意見もあります。残された課題を選んでもらうと、以下の順になり、1位と2位の差は2票でした。

- 1 教職員の資質・指導力の向上
- 2 子どもたちの基礎学力の定着と向上
- 2 学校・家庭・地域の連携の強化
- 3 豊かな心を育む教育の推進
- 4 家庭・地域の教育力の向上
- 5 特別支援教育の推進

学校評価について

その他「学校評価」に対する設問の纏めです。学校の基本方針や教育目標などの説明等は、多くの学校でなされているとの回答があり、調査結果についての公表や検証にも多くの保護者が参加する機会を得ているとの回答がありました。学校評価が効果的に活用されているかどうかの質問には、「そう思う・ややそう思う」を合わせて半数以上の評価を得ています。高校では、学校と保護者の壁がまだ高いのでは、という声も聞こえる中であって校長協会が自ら取り組みを推進してきた「学校評価」については、学校の積極的で真摯な姿勢が窺え、共通する意識をもてる機会を得られたと、学校に対する保護者の理解を深める大きな要因になったと評価できます。

終わりに

今回のアンケートや会長会・各地域で開催する育成員制連絡協議会の席上、多くの会長・役員・地域の方々と語る機会を得てきました。保護者から異口同音に語られるのは、学校の取り組み方や努力に対し、また県教委の指導に対し、一定評価をしている言葉です。しかし、一步踏み込んで本音で議論した時には、何らかの不満を持っていることも感じられます。

その最たるものは、この改革の発端であり、保護者が切望した、子ども達の学力の向上についてです。小学校から中学校に行く段階のつまずき、高校に上がってくる時のつまずきを解消されることなく持ち続けている子ども達がいいます。

幼児期の躰や教育が悪い、私学に抜けるから、学習習慣が身についていないから等、責任を転嫁する姿も見られ、真正面から課題に対して取り組むことが見えなくなり、拳句「やっぱり家庭にこそ問題がある」という方向に動いている傾向に少々疑問と不安を感じています。

10年前、「子ども達を主人公に」を合言葉に、「何かが変わる」きっと変わる」と胸躍らせたあの頃、その期待はいつしか「誰かが変えてくれる」きっとやってくれる」私だけの責任ではないから」と思う気持ちに姿を変え今日の結果を運んできているように思えてなりません。

何からでも、今日から、私が、という「ぐるみ」の一員としての自覚と「これを」誰が「いつまでに」という具体的な眼に見える計画を立て粘り強く、「土佐の教育改革」取り組んでいくことが必要であったと感じています。

十年の節目にあたり、保護者達からはこの改革の心を継続してほしいとの思いが多く寄せられています。「子どもたちが主人公」との思いが保護者から地域から大きな広がりを生み、真の「県民ぐるみ」運動に発展していくことを期待すると共に、いつからでも、どこからでも参加できる体制作りに参画していける団体でありたいと思っています。

単P会長から見た「土佐の教育改革」について

高知県高等学校PTA連合会

会長 二宮久美

県教委教育政策課から高P連から見た「土佐の教育改革」10年間の評価・検証についての依頼があり、県立学校及び市立高等学校（分校も1校として）の48名のPTA会長に対して、下記の内容でアンケート調査を18年2月末に実施しました。アンケート用紙を個人宛に郵送、記名にて回答、郵送にて回収する方法で、その結果を集計し、すべての記載内容を順不同で取りまとめたもので、ここに報告します。

回収数・サンプル数：35名（回収率73%）

回答者・プロフィール：高等学校29名（回収率71%）、盲聾養護学校6名（回収率86%）

I 「土佐の教育改革」全般について

問1) 第2期「土佐の教育改革」の6つの基本柱を知っていますか？（1つだけ○印）

- 1 知っている（9名） 2 だいたい知っている（18名）
3 あまり知らない（5名） 4 知らない（2名） 5 無回答（1名）

問2) 「土佐の教育改革」として取り組んだ県教委の施策で十分であったと思いますか？

（1つだけ○印）

- 1 満足である（1名） 2 やや満足（14名） 3 あまり満足しない（14名）
4 満足しない（5名） 5 無回答（1名）

問2-1) それほどのような点で？（具体的に記入ください）

- 2 やや満足 ○県の事業としては、積極的に取り組んでいたと思う。
○全体的には、長期ビジョン計画のもとに改革の動きが見られた。
○高知県こども条例の制定、講演会・シンポジウム等で色々な知識が得られ、地域の方々とも知り合う機会が生まれた。
○教員の資質向上では、教員の意識が高まったように感じる。
- 3 あまり満足しない ○小学校までの教育改革が大切、そして保護者の意識改革が急務である。
○学校の先生側のドアが閉じられていることが多いように思われる。
○情報の相互交流が足りない。例えば、校長経由では
○学力のレベルアップができたのか。全県的にできたのか疑問である。
○教育改革の柱のみが一人歩きし、学校現場での取り組みが不十分である。教員の体質が旧態依然である。

- 校長のリーダーシップが少し足りないと思う。
 - ある分野の学校では全てについて遅れているように思う。
 - 教育関係、特に行政だけに止まっていたように思う。
 - 中山間地域の教育が果たしてどれだけ実現できたか疑わしい。
- 4 満足しない ○田舎を切り捨てる政策を推し進めている現状から見て、命を大切にす
る教育を理解しているか疑問である。

問3) 「土佐の教育改革」が県民的な広がりをもって取り組まれたと思いますか？

(1つだけ○印)

- 1 そう思う (0名) 2 ややそう思う (12名) 3 あまり思わない (16名)
4 思わない (7名)

問3-1) それはどのような点で？ (具体的に記入ください)

- 2 ややそう思う ○地域の方々を巻き込んだ取り組みが良かったと思う。
- 知らない・感心の無い人が多いと思う。
 - 外部から関わりや意見を言いにくい状況がある。
 - 学校に地域の方々を呼ぶ機会も増えたので、子どもたちを理解してくれるようになったと思う。
 - 高校は校区が広く、やりにくいところがあると思う。
- 3 あまり思わない ○学校の関係者以外は余り知らないではなかろうか。
- 学齢の子どもがいる家庭でも無関心な方もいる。
 - 一部の県民しか関わっていないと思う。広報不足
 - 学校・家庭・地域の連携が不十分
 - 県教委・PTA内ではしっかり取り組んでいるが、県民的には十分浸透しているとは思われない。
 - 学校に子どもが行っていない家庭では、ほとんど知られていない感がする。
 - 保護者まで十分に浸透していない。
- 4 思わない ○保護者と教師との信頼関係が良くなったとは思われない。
- 末端までの浸透・広がりが見えなかった。
 - 学校側の都合の良い時間帯に話し合いを設定するので、参加ができない。時間設定の工夫・意見交換にIT等を導入しては
 - 本年度の会長の研修で初めて知ったため
 - 県民には良いところだけを伝え、悪いところを出さないから
 - 我が子を介して教育改革の熱意が伝わってこない。連携を唱えながら教員間がバラバラで意思統一がされていない。

問4) 以前と比較すると学校が変わったと思いますか？(1つだけ○印)

- 1 そう思う (3名) 2 ややそう思う (16名) 3 あまり思わない (14名)
4 思わない (1名) 5 無回答 (1名)

1 または 2 と答えた方のみお聞きします。

問 4 - 1) それほどのような点で? (あてはまるもの全てに○印)

- 1 学校への支援がしやすくなった (1名)
- 2 学校の様子がよく分かるようになった (9名)
- 3 学校に要望や意見がしやすくなった (7名)
- 4 学校に相談がしやすくなった (3名)
- 5 保護者や地域からの信頼関係が高まった (3名)
- 6 保護者や地域との連携した活動が活発になった (5名)
- 7 保護者の学校行事への参加・協力体制が高まった (7名)
- 8 学校に安心して子どもを通わせる環境が整ってきた (1名)
- 9 子どもたちが学校生活に満足をした (0名)
- 10 熱心に取り組む教職員が多くなった (8名)
- 11 その他 (具体的に)

○学校以外の場で学ぶ機会が増えた。

○保護者間も地域もやっと始まりだしたところ。しかし、地域との連携も前もって保護者全員に向けての報告がない。

○教職員・P T Aともに新たな問題「改悪」を増やされた。

○学校改編に伴う時代に即応した学校方針に対する期待

問 5) 以前と比較すると P T A 活動が活発になったと思いますか? (1 つだけ○印)

- 1 そう思う (1名) 2 ややそう思う (17名) 3 あまり思わない (12名)
- 4 思わない (3名) 5 無回答 (2名)

問 5 - 1) それほどのような点で? (具体的に記入ください)

2 ややそう思う ○学校に頼り過ぎると思う。Pの中で変わって行かないと。

○以前と比べるとやっと全ての面で一歩進み出した感がある。

○会員全体の各部への参加。保護者会を5回の内、3回を各地区・地域で開催

○学校存続の危機・「改悪」の内容を話し合わないと行けなくなったから

○組織づくりをして役割分担ができたので、保護者会への参加人数が以前より多くなった。

○P活動が少しずつ多くなり、学校に関わる機会が多くなった。

○行事等へ率先して参加してくれる母親が増えた。

○活発になったといっても一部の役員だけの活動で、大半はおまかせで出てこない。

○トップリーダーの意識だけでは

3 あまり思わない ○小中では一定の成果があるが、高校では余り活かされていない。

○教職員は、P T Aを保護者の団体と思っている。活動後の慰労会も別々に計画されていることに驚いている。

○参加してくれる人が決まっている。少数精鋭で頑張った。総会なども

出席者を集めるのに苦労している。

○保護者のPTA意識が低い、通常招集の人員不足、役員不足

○高校になると家庭とのつながりが弱くなる傾向がある。行事等への呼びかけの反応も良くない。

○各単P活動は改革云々より、任期中の会長さんの資質による方が大きい。

○PTA活動に対する参加率が低い。

○何時も同じ顔ぶれになっている。

4 思わない ○全体的に自分の子ども以外のことに関心を示さなくなった。

○学校が親でなく委員会の方を向いていては、PTA活動が難しい。

○高校ともなるとPの方の活動がない。

問6) 以前と比較すると家庭や地域住民の協力や関心をいただけるようになったと思いますか？
(1つだけ○印)

1 そう思う (7名) 2 ややそう思う (11名) 3 あまり思わない (14名)

4 あまり思わない (1名) 5 無回答 (2名)

問6-1) それはどのような点で？(具体的に記入ください)

1 そう思う ○学校やPTAの努力により

○創立記念行事や記念講演で地域やその他多くの協力をいただいたこと

○学校側からのお願い事に対して、地域の方々が協力的である。地域住民の方々に「我が街の高校」として認知されていると思う。

○登下校時の生徒たちへの地域の人を見る目が厳しくなり、色々の御意見を会長の所へ知らせてくれる。

2 ややそう思う ○開かれた学校づくりの中で地域の協力が得られるようになった。

○開かれた学校づくり等

○高校の再編成問題でよく話ができるようになった。

○学校への子どもたちの様子を知らせてくれることが多くなったように思う。

3 あまり思わない ○3年間変わりがないように思う。

○以前から地域の協力をいただいております、特に変わったことはない。

○開かれた学校づくりで話を聞く程度で、その後のフォローが乏しかった。

○障害児をもっと理解して欲しい。

○PTA総会や地区懇談会への参加者が非常に少ない。

○専門学校であるので地域産業と結びついた実習をもっとして欲しい。

○関心は持っていただけるようになったと思うが、実際の協力・活動までには至っていないと思う。

4 思わない ○学校長の問題では

5 無回答 ○以前から地域住民の協力は十分にある。日本人の美徳は変わっていない

い。

問7) 以前と比較すると家庭や地域の教育力が再生・向上されたと思いますか？

(1つだけ○印)

- 1 そう思う (0名) 2 ややそう思う (11名) 3 あまり思わない (16名)
4 思わない (5名) 5 無回答 (3名)

問7-1) それはどのような点で？ (具体的に記入ください)

- 2 ややそう思う ○学校行事への保護者の参加が増えだした。
○地域の活動は少ないが、学校は頑張っていると思う。
○地域推進指導主事の配置で、地域や小中学校との連携等は活発になってきたと思う。
○教育力の向上まではまだかもしれないが、学校に対する「関心」は強くなったと思う。
- 3 あまり思わない ○地域としては学校を応援したいと思っても、学校側がそれに向けて動こうとしていないように思う。
○学年に見合った基礎学力まで到着できていない。もっと家庭でできることを学校側から具体的に教えて欲しい。
○意志疎通が不十分なため、学校と家庭の相互の思いが一致・増幅されない。
○親は学校任せ、学校は家庭への責任を求める。結果、前向きな方向性を見出せない。
○改革といっても昔とあまり変わっていない。
- 4 思わない ○教育体制が悪化しているから
○学校長の意識、情報発信能力がないためPTA・地域の意識が上がらず成果が出ない。
○具体的な施策が実施できないため
○目にみえて見えない。
- 5 無回答 ○日本の家庭や地域の教育力は世界最高水準にあると考える。

問8) 以前と比較すると県教委が変わったと思いますか？(1つだけ○印)

- 1 そう思う (4名) 2 ややそう思う (20名) 3 あまり思わない (7名)
4 思わない (2名) 5 無回答 (2名)

問8-1) それはどのような点で？ (具体的に記入ください)

- 1 そう思う ○どの会へも出席され、PTAの声を聞こうとする姿勢が感じられた。
○意識が高くなったと思う。
○県教委ではなく「橋本予算内委員会」「ゴマすり委員会」だから
- 2 ややそう思う ○情報をより多く出してくれるようになったこと
○教育長の意識・意志が地域やPに伝わったから
○教職員の研修、障害を持った者への関わり、教育を改革しなければなら

ないという意欲を感じられた。

○県教委が熱心に取り組んでいる様子がヒシヒシと伝わってくる。「机上で笛吹けども踊らず」という感じ、息切れを感じさせる。○教員採用試験に保護者を面接官にするなど少しは変化を感じられる。PTAを始め現場の声をより良く聞いていこうという姿勢はより前向きになっていると思う。

○今以上に各課や障害福祉課・療育センターなどとの連携充実に

○普段の子どもたちの様子を見学に来られることがないので、実際に目で見ていただきたい。

- 3 あまり思わない ○地域や家庭が本当に求めている先生を見抜く力が弱いように思う。ペーパーテストで全てを決めないで欲しい。
- 4 思わない ○県教委が変わったとすれば、ここ数十年下り坂にある高知県の活力が上がっているはずである。高知県の様子を(観察すれば)一目瞭然である。

問9) 「土佐の教育改革」の成果・効果をどのように評価しますか?(1つだけ○印)

- 1 高く評価する(1名) 2 やや評価する(25名)
3 あまり評価しない(5名) 4 評価しない(3名) 5 無回答(1名)

問9-1) それはどのような点で?(具体的に記入ください)

- 1 高く評価する ○先生方の意識や態度がより熱心になった。
- 2 やや評価する ○少なくとも教員は変わりつつあると思う。
- 意識を持てたから。ただ県教委・地教委・学校現場・PTA・地域の連携・情報の相互交流が足りなかった。
- 改革に取り組んでいることは評価できる。
- 以前のことを思うと格段の差があると思う。
- 長期社会体験は、教師の社会性が身に付いて良いと思う。一般的な社会ルールを守らない教師が多いと聞く。
- 小学校で、川の水質調査を行ったり、環境について関心が高まってきたと思う。
- 目標を掲げて、それに向かって改革をしようとした意欲は大いに評価できる。しかし、統計的な数値だけでは評価できない点もある。例えば、就職率の数値を上げても直ぐ辞めてしまう。ニートになるなど実態が伴わない場合がある。
- 1つの柱を立てた取り組みとしては評価できる。
- 学校の保護者に対する姿勢に、少し開かれた様子が感じられる。
- 目に見える成果はまだ十分とはいえないまでも、ビジョンに向かって動き出していることは評価できると思う。
- 3 あまり評価しない ○やっと児童生徒の「カルテ」のようなものができたところである。県教委は形から入ろうとするのではなく、中身から入って形にま

で持っていってもらいたい。

- 4 評価しない ○日本の心と命の源を育てる田舎が元気でない教育は教育とはいえません。

問 10) 「土佐の教育改革」で残された課題は何と考えますか？（あてはまるもの全てに○印）

- 1 子どもたちの基礎学力の定着と学力向上（23名）
- 2 教職員の資質・指導力の向上（25名）
- 3 特別支援教育の推進（9名）
- 4 豊かな心の育む教育の推進（19名）
- 5 家庭・地域の教育力の再生・向上（18名）
- 6 学校・家庭・地域の連携の強化（23名）
- 7 その他（具体的に）（5名）
 - それぞれとの連携、情報の相互交流が足りなかった。
 - 中山間地域の子どもたちの教育
 - 保護者の改革
 - 県教委の上位意識の棄捨、県民との話し合いを
 - 家庭教育・子育て支援の活発・強化

II あなたの学校で行っている「学校評価」について

問 11) 年度当初に学校の基本方針や教育目標などの説明やお知らせがありましたか？

（1つだけ○印）

- 1 説明やお知らせがあった（29名）
- 2 説明やお知らせがなかった（1名）
- 3 覚えていない（3名）
- 4 無回答（2名）

問 12) 「学校評価」の質問事項について事前に検討会または相談などがありましたか？

（1つだけ○印）

- 1 検討会または相談などがあった（14名）
- 2 検討会または相談などはなかった（19名）
- 3 その他（0名）
- 4 無回答（2名）

問 13) 本年度の「学校評価」の回答状況について？ 回答（16名）、無回答（19名）

- 1 保護者の回収率は（約29%～98%、平均60%程度）
- 2 地域住民の回答数は（1人～約80人、平均16人程度）

問 14) 「学校評価」の調査結果はどのような方法で知らされていますか？

（あてはまるもの全てに○印）

- 1 学校からの会報・通信などで（19名）
- 2 会合などで（16名）

- 3 特にない (4名) 4 無回答 (2名)

問15) 「学校評価」の調査結果を保護者や地域を交えて検証する機会がありますか？

(1つだけ○印)

- 1 ある (17名) 2 ない (13名)
3 その他 (具体的に)
 ○開かれた学校づくりで (2名)
 ○総会などで意見を列記したプリントがくばられる (1名)
4 無回答 (2名)

問16) 「学校評価」の調査結果は有効に活用されていると思いますか？(1つだけ○印)

- 1 そう思う (3名) 2 ややそう思う (16名) 3 あまり思わない (8名)
4 思わない (6名) 5 無回答 (2名)

問16-1) それはどのような点で？(具体的に記入ください)

- 1 そう思う ○先生方の研修回数が増え、授業内容が良くなった。
2 ややそう思う ○教職員と保護者の両方の会話による授業が見られる。
 ○教員・生徒の学習会への保護者の参加ができるようになったこと
 ○調査結果を公表することで先生方にも改善意識が生まれると期待している。
 ○共通する意識を持つ機会となる。
 ○学校側が真摯に受け止め学校運営に生かしているため
4 思わない ○全ての教員ではないが手段が目的となっている気がする。
 ○会報と役員会等での報告のみで終わっている。
 ○今後協議し活用して行きたい。

問17) 「学校評価」の導入と実施で学校は変わったと思いますか？(1つだけ○印)

- 1 そう思う (3名) 2 ややそう思う (13名) 3 あまり思わない (12名)
4 思わない (5名) 5 無回答 (2名)

Ⅲ あなたの学校で行っている「開かれた学校づくり推進委員会」(学校によっては名称が異なるかもしれません)について

問18) 「開かれた学校づくり推進委員会」は本年度は何回開催されますか？(1つだけ○印)

- 1 1回 (5名) 2 2回 (22名) 3 3回(4名) 4 4回以上 (3名)
5 無回答 (1名)

問19) 「開かれた学校づくり推進委員会」は1回当たり何時間程度かけておりますか？

(1つだけ○印)

- 1 60分程度（5名） 2 90分程度（19名） 3 120分程度（10名）
4 150分以上（1名）

問20) その時間で十分に審議が尽くされていると思いますか？（1つだけ○印）

- 1 そう思う（8名） 2 ややそう思う（16名） 3 あまり思わない（8名）
4 思わない（3名）

問21) 審議内容はどのようなものですか？（あてはまるもの全てに○印）

- 1 学校からの報告内容で（20名） 2 学校からの提案内容で（21名）
3 委員長からの議題で（7名） 4 会議の成り行きで決まる（13名）
5 その他（具体的に）（7名）

○自由討議

○PTA・地域からの報告、生徒の提案・報告

○生徒からの提案

○保護者アンケートの内容で

○決めて行うときもあり、学校からの報告・提案もある。

○生徒会が中心となり、教科及び学校施設の要望等

○生徒に意見を聞いて

問22) 生徒や保護者・地域住民の声が反映されるような会議となっていると思いますか？
（1つだけ○印）

- 1 そう思う（12名） 2 ややそう思う（14名） 3 あまり思わない（5名）
4 思わない（4名）

問23) 審議された内容は何らかの方法で保護者には知らされていますか？（1つだけ○印）

- 1 知らされている（16名） 2 時々知らされている（4名）
3 あまり知らされない（12名） 4 知らされない（2名） 5 無回答（1名）

問24) 結果は学校運営や教育活動に反映されていると思いますか？（1つだけ○印）

- 1 そう思う（9名） 2 ややそう思う（20名） 3 あまり思わない（4名）
4 思わない（2名）

問24-1) それはどのような点で？（具体的に記入ください）

- 1 そう思う ○体育祭・学園祭等の開催、保護者や地域に人々が参加しやすい環境づくりをしている。
 ○会の内容には改善するところが多いが、決定事項についてはきちんとフィードバックされている。
 ○学校運営では反映されている。
 ○学習環境の整備、学校行事の充実、学力向上対策
 ○先生方の研修会への参加回数が増えたり、生徒や保護者の意見が取り入

れられ部活動等が増え、授業内容が良くなった。

2 ややそう思う ○休日等の学校開放

○以前よりは少しは反映されだした感がするが、この会に保護者はまったく参加しないのは疑問に思う。

○調査結果を公表することで先生方にも改善意識が生まれると期待している。

○地域に根ざした学校交流・社会見学・体験等

○生徒代表の声・意見を真に聴き、取り入れようとする体制になっている。

○職員会議の中で報告されることがあると聞いている。

3 あまり思わない ○地域の人や、一般保護者、生徒が対象となっていないから

○会議の在り方が意見集約できる形で進んでいないし、学校から全て返事が返ってこない。

○学校の中では先生方が取り組んでいると思いますが、あまり見えてこない。

4 思わない ○教員に思ったことの改善を求めても言い放し状態である。

○提案をし回答を求めますが、回答をいただいたという感覚を持ったことがありません。

IV その他

最後に以下のことについてあなたのお考えをお聞かせください。

問 25) 「土佐の教育改革」について

○来年度で最終年度となっていますが、20年度からも「土佐の教育改革」を進めて欲しい。

○教職員の教育力の強化

○「継続は力なり」地道な活動ではありますが、県民の意識向上には一石と投じた取り組みですので続けてください。

○発展的に継続すべきである。部分的に十分議論されずに進めた事例もあるので

○今後も何らかの形で継続すべき

○今後は中高、小高の連携を大切にして、地理的なハンディがない教育環境を作る。

○これからも取り組んでもらって、より良い学校生活が子どもたちに送ってもらえるようになれば親としても大変うれしく思う。

○6つの柱とも素晴らしい提言でした。結果が出るように努力すべきです。非常に具体的なことははっきりと、時間を区切って、少しずつ積み上げて行くことが大事だと思います。

○大事な問題であり、これからも進めていってもらいたい。ただ賛否もあり、しっかり目的を決めて違う形でやっては

○まだ不登校の子どもたちに熱心に取り組む教職員が少ないように思う。

○授業評価システムを活用しての教員同士の授業研究を行うことにより、分かりやすく、また生徒に力をつける授業が行われていると思う。

- 学校の問題を学校だけでなく保護者や地域の力を借りて解決しようとする事で、直ぐには解決しないかもしれないが距離が近づいてきたように感じられて良かったと思う。
- 子どもたちや家庭にとって何が一番大切なのかを早く知り、その大切なものを取り戻すための教育をお願いしたい。
- 今後も続ける必要がある。
- 「改悪」で地域や実状に配慮したものとは思えない。向学心は県の宝です。その思いを削減するような改革では論外です。
- 自分自身が今年からの会長で勉強不足か、勉強しないと分からないのか、改革の実態が見えない。
- 理想の目標を掲げているので、一過性で終わらしたくない。
- 教育改革に終わりがなく、社会情勢の変化を見極めながら改革すべきところは改革すべき。「土佐の教育改革」のビジョンも間違っていないと思う。
- 指標を掲げて施策の推進はよいことであると思う。また今日明日で100%成果が目に見えて来るといったものでは無いと思う。だから、10年経過したから、まとめて終わるような単純なものにして欲しくない。何らかの形で継続発展していつてもらいたい。
- このようなアンケートの検証を生かす会合が、改革をする上で大切なことと受け止めています。どんどん反省点（良い点・悪い点）を見出してください。PTA会長をする以前から土佐の教育改革の本を購入しましたが、各学校の会長等に十分認識させる必要があると思う。この上で改革に取り組むと一層改革ができると思う。校長のリーダーシップが教職員の教育指導力・生活指導力が高まり統一化され、教育改革に結びつくと思う。
- 盲聾養護学校については、健常の児童生徒に対してよりも、まだまだ遅れていると思う。

問 26) 県教委や学校の取り組みについて

- それぞれ地道に努力していると感じています。
- 学校では授業改善に関しての取り組みを中心に、幅広い教育活動を行っているように思います。
- 問題が表面化するまで様々な現場からの声が出ていると思うが、取り組みが後手にならないように。フリーター・ニート対策等に関して、今後は子どもたちの学ぶ場の確保を早急をお願いしたい。
- 中高一貫校の在り方について、県教委がもっと真剣に考えるべき。少なくとも第一期生が卒業するまでに目に見える形で成果を上げることが必要（実験台で卒業させることがあってはならない）
- 関係者の方々の御努力は十分感じられますが、PRの手法などもあるのでしょうか、認知度や問題意識は全般的に高くなったように思う。
- 高校卒業時の進路未定者を作らないようにする。
- 17年度は教職員の一部の者の不祥事が相次ぎ、より資質が問われた年だったように思います。今までも努力されているのですが、これからもより一層に資質の向上のために努力を望みます。17年度は組織づくりをして学校行事への参加人数は増えましたが、役員を選出となると後込みする人が多く、保護者同志の連帯感をつくる努力が必要だと感じました。
- 教員個々の取り組みについての温度差があり、学校全体としての取り組みの盛り上がり欠ける。
- 現状維持・お上の意向だけで政策を進めては行けません。

- 学校長で情報が止まり、県教委が意識はあるがどのような形で進めて行くのか分からない。特に高校についてはスキームワーク、チェック機能がいるのでは、現在はどこにもできないのでは
- 学校・家庭・地域との連携は更なる強化を、子どもの基礎学力向上もお願いします。
- 授業参観週間を年2回実施し、期間中に大学の出前講座を入れて、保護者に呼びかけるなど、開かれた学校づくりに努めている。
- 学校も地域や保護者の意見を大事に取り扱ってくれている。直ぐには実行できなくても少しずつ実行しようという意欲が感じられる。
- 先生の視野が広がる機会を増やして欲しい。
- 県民全体への広がりにつながる工夫を
- 現場は必死に取り組んでいるところが多い。
- 熱心に何かをしなければいけないし、県教委・学校も取り組みを増やしているが、実際に周りに目に見えるような結果が出ていない。
- それぞれとの連携がいわゆる、学校は教員の指導力・資質向上、家庭は子どもとの対話、地域は近所付き合い、県教委は学校同様に指導力・資質向上をどういうふうに、それぞれの単位が内部での連携・充実をはかれないと、対外的に連携を取ることが難しい。
- 早く目に見えた成果を望まれたと思いますが、県教委としてはこれまでの経過をよく省みながら継続して欲しいと思います。
- 教育現場は難しいものがあると思う、特に中高は。高校は義務教育ではないですが、生徒と一緒にとか、そういった先生が減ってきた気がする。生徒の学力向上を目指すなら授業の組み方、学習意欲がわいてくるような授業の工夫してくれる先生が望ましいと思う。一方通行は道路だけでよいと思う。生徒も親も考えなければならぬがサラリーマン先生は考えもんである。
- 以前と比べ会長・副会長と校長とのつながり高くなりましたが、学科改編で副会長も多くなり、各部の組織も活発となり、学校へ役員会を通じて話しやすくなったと思う。
- 盲聾養護学校において、予算がない、他県はと先ず言うてから取り組むようでは子どもたちが一番犠牲になると思う。きちんとした訓練と低学年からの基礎学力の獲得をしなければ、新しい構想を取り入れても子どもたちはついて行けない。更なる配慮をお願いします。
- 特別支援教育に関しては、良くやっていると聞いています

問 27) 単位PTAの取り組みについて

- まだまだ意識が低い「保護者の意識改革」が必要である。
- 障害者施設を訪問し、餅つきを行った。
- P活動の参加が少しずつ増え、学校への関わりも増えてきている様に思う。
- 中高一貫校での中学校のPTAに関して保護者間の連携を強めることの必要性を痛感している。
(高校のPTA活動の手法に流されている)
- 地域との連携は現在のところ不十分なので、学校周辺の清掃活動で近隣への理解も得られ、文化祭へのチラシ配布等により初めて学校へ足を運んだ人達の参加もある。
- 1つとして、地域の方々との連携を強化するために学校へ招く機会を増やす。2つ目に保護者会(毎月開催)をより参加しやすい工夫をする。(時間や場所)
- 小さな学校で地縁的つながりも薄いですが、全員参加を基本に一人一役ということで、良く活動

できていると思います。(行事自体は、特に新しいものはありません)

- 学校・家庭・地域が一つになるには少し時間がかかる。教員一人ひとりの意識改革が課題
- 学校が進めてくれないければ、Pだけでは何もできない。それぞれの機関との連携・情報の相互交流が必要である。
- 各家庭が学校・PTA活動に関心を持ってもらえるように工夫が必要である。
- 役員一年目だが、余りにも保護者の出席(参加)率の悪さに痛感しています。
- それぞれ地域の特性を生かして、その位置している学校によって、特徴あるPTA活動が行われればそれでよいと思う。
- PTA主催による大学訪問、保護者が大学の内容を知るうえで良い機会となっている。また、PTA主催の土曜日の全学年補習授業、発展的な内容の学習、受験対策が行われ、子どもたちの学力向上のために大いに貢献をしている。
- 行事に保護者の参加が少ない。このことを少しでも解決する取り組みをして行きたい。
- 親同士のコミュニケーションを取りやすいPTA活動ができるような環境づくりに、学校が協力して欲しい。
- 学校・地域の保護者会の充実及び地域での障害のある就学前の保護者との連携等を
- 盲聾養護学校ではどうしても保護者ということが難しく、生徒の年齢によってはPTAとしてとらえた活動が必要でないかと思う。
- 現場は必死に取り組んでいるところが多い。
- 保護者の意識低下、呼びかけ不足で思うような活動ができていない。
- PTAの名称の意味をしっかりと考え、保護者と教職員とスクラムを組んで活動をしたい。
- 恒例の行事開催に向けて事前の協議や協力はもちろんであるが、定例会以外でも保護者が集まって協議する機会を増やしていただきたいと思う。
- 保護者が足を運んでくれるPTAはどうしたらよいかと考えていましたが、保小中と子どもの年齢が上がるにしたがって親が学校に足を運ばなくなる。たまに学校で見かけたときは成績渡しか3者面談もしくは子どもが失敗したときかな、難しい。
- 保護者の教育力、生徒への指導力を高めるようにPTA活動を通じて今後も取り組んで行けるように望みます。
- 広域にまたがるなかで、人が集まらないのが欠点。保護者が学校にまかせ過ぎているのではないかと思う。今年はそれでも保護者の連絡網ができて、保護者間で情報交換が始まり、少しは変わる傾向が見られ出したと思う。

3 県民からのパブリックコメント一覧

(1) 県民からのパブリックコメント一覧

平成18年 8月 31日現在

番号	受付 月日	提出 方法	意見	男女	年代	教職員 かそれ 以外	子ども					参考
							幼	小	中	高	無	
1	7月3日	郵便	英語力が上達していない。 英会話の力を向上させるためには 県内の大学、高校の入試に会話テストの導入 中学、高校に100%英語で話す英会話の科目を設置 小学生できれば幼児期から習わせることが大切である。	男	40	以外						
2	7月3日	郵便	連携と、いながら、本気でつきあってくれる市町村教委は少ない。 学校が楽しければ学力は向上する。 読書や、自然環境、社会環境、文化環境と向き合うようになれば、子どもの心がいきいきしてくる。 子ども環境フェアが形骸化したのは、県教委に感性豊かな人材がいらないからである。	男	60	以外						小学校 の児童 安全サ ポーター
3	7月3日	郵便	教育現場では教師一人では手に余ることが多いのではないかと。教育学部の学生や地域のボランティア、保護者等との連携を強化すべきだ。 生活科は、まさに「生きた勉強」。これからも続けてほしい科目である。 特区に指定されており1年生から英語の授業があるが、2年生では一度もない。もっと英語の授業をしてほしい。	女	30	以外						
4	7月3日	郵便	先生自体がゆとりがなく、疲れている。子どもの指導は先生の資質の個人差が大きい。 欠点を補う教育ではなく 長所を伸ばす教育を実行していきたい。	女	40	以外						
5	7月3日	郵便	学力の向上も重要だが、豊かな心、元気な身体づくりを優先すべきではないか。そのために 他者への思いやりの心をつくる スポーツなどの団体行動を通して優しさの心を身につける 物を大切にすることを大切である。	男	60	以外						
6	7月3日	郵便	数字を見てわかるとおり この改革はほとんど進んでいない。 改革の柱である6項目すべてを重点的に取り組んでいるため、結果が中途半端である。 最重要項目を1つ決めて集中的に取り組んだほうが良い。6項目の中では、教職員の資質の向上が一番大切だと思う。	男	60	以外						
7	7月3日	郵便	幼少からの英語教育より、優れた童話や日本文学を学ばせることが豊かな心や人間性を育む。 不登校や教室での孤立を防止するには、基礎体力(基礎・基本)を高めることが重要である。 教員の資質向上策は必要。また、資質に欠ける者への対応は、県が一括して対応し、教員負担を軽減すべきだ。 県内大学や高等教育機関の支援を受け、高知県を教育立県にするための施策がほしい。 「人材産業」としての土佐の教育改革に大いに期待したい。	男	60	以外						
8	7月3日	郵便	今の教育は教科に重点が置かれている。今一番欠けているのは、集団の中で協調と規律を守り、事の是非の判断力を育てることである。 良い社会を作る人を育てることが教育である。	男	60	以外						
9	7月3日	郵便	高校は個性化が進み、進路や将来を考える意味で、大いに役立つ。一方、小中の動きや変化はあまり見えない。 土佐の教育改革に求められるのは、しっかりと子育てできる家庭や親を作り出すことではないかと思う。	女	40	以外						
10	7月3日	郵便	高知県は共働きの家庭が多い。突発的なときや放課後両親が帰宅するまで、子どもを預ける場所はどうか。	女	50	以外						
11	7月3日	郵便	目標の文字を羅列しているだけで、具体的に何をすることがまったく記載されていない。 予算を使っているだけで、成果がなく税金の無駄遣いである。 中高の授業に市場経済の原理を導入する。具体的には、生徒が教師の授業を選択できるようにするなど。	男	60	以外						
12	7月5日	郵便	家庭が生活習慣を身につけさせる努力をしているか。 学級は授業ができる体制にあるか。 教職員は子どもの学力定着に力を入れる環境にあるか。 ・30人学級の導入は大変良かった。 開かれた学校づくりは「県の要請で仕方なく作った」になっていないか、見直しが必要である。 ・スクールカウンセラーが機能しているか確認してほしい。 地域指導主事がなくなったのは、残念である。 ・サラリーマン教師の方、さっさとやめてください。	女	30	以外						
13	7月5日	郵便	学生時代に良書を読むことは大切であり、希望を見つけることができる。 学校も家庭も他人に優しくできる子どもを育ててほしい。	女	50	以外						
14	7月5日	郵便	少ない子どもたちを大事に思い、基礎学力の向上と元気な明るい子どもに育てていくことは、県民皆で協力していきたい。 教職に就こうとする者は、教育学部に進んでほしい。 ・クラスやクラブを持っている先生と持っていない先生の負担も考えてほしい。	女	50	以外						

番号	受付 月日	提出 方法	意見	男 女	年 代	教職員 かそれ 以外	子ども					参考
							幼	小	中	高	無	
15	7月5日	郵便	・土佐の教育改革の最大のネックは教職員の資質の問題である。 高校改編や人事評価制度などの新施策を国の方向性をもとに都市のコンサルタンに依存したことは矛盾がある。 子どもたちの基礎学力の定着率(報告書)と現状を本当に把握できているか疑問である。 報告書づくりより実践を。	女	50	以外						
16	7月6日	郵便	・基礎学力を定着させることが、教育者としてすべきことだ。 教師も本当の考えを打ち出し、生徒のために論争するくらいの熱意が必要である。	女	50	以外						以前教職経験あり 元教員
17	7月6日	郵便	・県教委事務局から赴任してくる管理職は、学校運営を組織的に活力のあるものに仕上げる力には欠けているように思える。 思い切った提言を管理職が真摯に受け止め、公平な討議に持ち込む器量が不足している。	男	70	以外						
18	7月6日	郵便	・教師の力量を教育委員会で調査できないだろうか。 (調査内容例)教える力、子どもの学習理解度を把握する力、コミュニケーション能力等 共働きが多い昨今、地域の人も協力したいと望んでいる。	女	60	以外						
19	7月6日	郵便	・小学生に英語は反対である。むしろ、次の4点に力を入れてほしい。美しく大切な日本語を身につけさせること。基礎学力 命、人権を大切にすること。食育。 地域の教育力を活用することで、人の心の痛みが分かり、視野の広い人に育つこと、ひいては、学力向上が期待できる。 県の指導により教員の研修を推進し、常にレベルアップを図ることが大切だ。	男	60	以外						
20	7月6日	郵便	・子どもたちが外で遊ぶ姿が少ない。自分にかかわりのないことであれば、見ても知らないふりをするのが淋しい。 先生たちは、教育についてしっかりとした信念を持って、生徒に接してほしい。愛情を持って、精神的にしっかりとした明るい先生が望まれる。	女	60	以外						
21	7月6日	郵便	・「土佐の教育改革」は、それぞれの専門家や教育界の長いキャリアをお持ちの方々によって、かなりのエネルギーを費やされており、立派な成果があがったものと思う。 ・「教育は仁なり 教育は根気なり 教育は心なり」。さらに、「誇りと憧れと責任」である。この理念を会得しているかどうか、改革の将来にかかる。自信を持って教育改革に臨んでほしい。 ・三身一体の「三分の一ずつ負担教育」を提唱する。家庭で過ごし、学校で学び、社会を知る(自由な空間で遊ぶ)。三身がバランスよく機能することが重要である。 ・改革10年を経て気になること 学力が全国平均以下 科学(ロボコン)に挑んだ四国大会 道徳教育にも力をいれるべき 教育は金で買っても教養は金で買えない 教養で養う品格 目的にあった服装 郷土カルタで郷土愛を高めよう	男	70	以外						
22	7月7日	郵便	記入なし	男	40	以外						
23	7月7日	郵便	・遊ぶことから学べる学問は、今の教育向上には無理なのだろうか。具体的には、四則計算ができ、新聞記事の内容がわかる子、善悪が分かり心の痛みや悲しみが分かる子に育てば、後はその子が必要とする学問を学べる施設を多く提供すればよいのではないか。	女	50	以外						
24	7月10日	郵便	・30人学級が編成され、子どもが授業に集中できている。 ・保幼小の情報交換が進んでいる。就学前教育が進んでいる。 ・子育てや教育(学校行事)への父親の参加率が高くなり、子どもたちの精神的安定が図られている。 ・保護者等への「学力実態の公表 課題の共有化」が、あまり図られておらず、不満でもある。 ・地域や学校での人間関係が希薄になりつつある。まず大人同士がつかい合えないと子どもは育たない。個人情報保護とのかかわりか、学校での子どもの様子もつかみにくい。 ・教育費の減少が子どもに影響を及ぼさないようにしてほしい。(例)財政難を理由に町立図書館の蔵書の減少 ・「土佐の教育改革」という言葉自体は人々に浸透している。政治が子どもに向き合っているという姿勢がよくわかってよかったと思う。今後も継続、アピールをしてほしい。	女	40	以外						
25	7月10日	郵便	・子どもたちの心の葛藤が、学校嫌いや友達への暴力といった形で現れている。楽しい学校教育をお願いしたい。土・日は家でゲーム遊びより外遊びに参加させて、月～金は、学校教育を強めたい。 ・不審者に対して警察の見回り強化をお願いしたい。住民も頑張っているが、犯罪者によるいやがらせ等が心配である。	女	20	以外						
26	7月10日	郵便	・子どもはすべて成人し、意見等述べることができない。	男	70	以外						
27	7月10日	郵便	・朝ご飯を食べて来ない子どもに、学校でおにぎりやパン、牛乳を用意している学校がある。家庭教育と学校教育はきちんと分けるべきである。この頃、何でも学校のせいにすることが多い。 ・学力については、底辺の子どもを引き上げるのに力を入れ過ぎて、できる子の能力を上げることをしてこなかった様に思う。我が子が小学校時代、学力の高い子どもたちが、先生の目の敵にされていた。だから孫は私立か付属に受かってほしい。公立の学力に全く期待が持てない。	女	60	以外						

番号	受付 月日	提出 方法	意見	男 女	年 代	教職員 かそれ 以外	子ども					参考
							幼	小	中	高	無	
28	7月10日	郵便	・「土佐の教育改革」のスローガン、提言の3つの柱はよかったが、第2期土佐の教育改革」は柱が6つになり、何か柱ばかりが空回りしているようで、はがゆい思いをしている。 県の事務局の方々、あせらないでください。教員の実践に勝るものはなく、教員の目を子どもに向ける時間を多くとることが大事なのだから。	女	60	元						
29	7月10日	郵便	高校のクラス編成では、習熟度別や特進クラスが必要なのか。むしろ、1つのクラスで1年間ともに受験を戦ったという思い出を心に残すような学生生活を送ってほしい。 保護者とのかわりを持ちたくない教員がいる。何事も話ができる、相談できる教師を育成してほしい。 国公立大学の進学率を上げることが大事だが、生きる力を身につけさせてほしい。	女	40	以外						
30	7月10日	郵便	自分が学生の頃は、絶えず先生と親のネットワークの中に子どもが位置していたように思う 心の豊かさを育む教育の必要を強く思う。弱者の立場で物事を判断できる人材の育成を教育の中心に据えてほしい。	男	60	以外						
31	7月11日	郵便	教員の多忙さは授業外の用務が多過ぎることに注目したい。教員が授業に専念できるよう時間的・精神的余裕が必要だ。 そこで以下の2点を提案する。保護者、PTA、地域、教育委員会等、対外対応担当「教頭職」(2人教頭制)の配置をお願いしたい。教育委員会のあり方を、規模縮小、廃止を含めて検討したい。その前段として、委員会の公開性、議事録の公表が必要だ。	男	60	以外						
32	7月12日	郵便	「わずか数ポイントで満足」が増え、「不満」が減った・・・との評価判断はさして重要とは思えない。「わからない」の多さが問題だ。学校、地域、行政が子ども中心に四苦八苦の汗を流したはずなのに、教育改革の県民的理解や広がりが疑問視される。 改革第2期は、1期の反省に立ち、すばらしい「柱」をたてている。気になるのは、学校現場の教師が改革のつねりに疲れ、地域はリーダーのエネルギーがいまままに学校からのかけ声に翻弄されているようだ。子ども中心と言いながら、委員会等の立ち上げや行動が、そのことに終始し、「子どもをかえる」ことに至っているのか。ちなみに、相応の学力が付き、情感の整った子どもたちがこの10年で目立ってきたならば、それは「教師の変革」であり、教育改革の一面での成功だろう。	男	60	以外						
33	7月12日	郵便	少子化で、子どもたちの声を聞けることが少なくなり、淋しい。 週5日制になり、その分子どもたちへの目がとどかない面がありはしないかと、心配だ。 命の尊さや忍耐が、学校、家庭、地域の連携のもと養われることが大事だ。	女	70	以外						
34	7月12日	郵便	「食事を十分支度している家庭が以外に少ない」と聞く。学力は大切だが、その前に3食きちんと食事をとるといった通常のことができることの方が大事ではないか。 地域みんなで子育てをしたらよい。子どもの送り迎えを時間・経済共に豊かな老人クラブの方に依頼。教員OBに宿題を教えてもらい、基礎学力の向上につなげる。	女	60	以外						
35	7月12日	郵便	特別支援教育については、まだまだ一般の方々への認知度が低い。 学級にいる軽度発達障害の児童への対応も十分ではなく、教員の知識不足の感も否めない。	女	30	以外						
36	7月13日	郵便	基本は「家庭」での小さい頃からの正しい躰である。 学力・学力と教え込んでいる学校現場。規則正しい生活(早寝・早起き・朝ご飯)をさせていない家庭。疲れている子どもが多くなっているように感じる。	女	50	以外						
37	7月14日	郵便	・「まじめ」をばかにする子どもたちが多くなっている現実を感じる。教育って何だろう?	女	40	以外						
38	7月14日	郵便	学力の定着を願って、担任ともう一人先生をつけ、一人は授業を進め、一人は子どもたちの学習ぶりをみて支援していく授業形態を進めていけばどうだろうか。 放課後等をつかったの加力学習の必要性を感じる。 不登校にかかわっては、学校は楽しい所で子どもたちが行きたくてたまらないという居場所にする。また、本人の考えを尊重して、家庭で勉強をしたりやってみようことをやらしてあげるといふ「ホーム・エデュケーション」の方法を取り入れてはどうだろうか。	女	30	以外						
39	7月18日	郵便	朝食を摂らない子どもが多くなっているが、早起きをして、体を動かし、家族と会話をしながら朝食をとる。これが家庭教育の基礎である。 安全教育(子どもたちの登下校等)の徹底を図る。事件発生後の対処では遅い。	男	60	以外						
40	7月18日	郵便	子育ての基本は家庭であるが、教育の充実を図るためには、行政、地域住民、各種団体、世代を越えたグループなどが連絡を密にした子育てに取り組むことが大事である。そのために、子どもへの「あいさつ運動」の推進。子どもの体験、交流活動の推進。(スポーツ少年団への参加の推進。老人クラブ等との交流。自然、生活、社会体験等の推進。家庭教育の充実への啓発活動の推進(お年寄りを大切にすることのやさしい子どもを育てる。 親が自分自身の生き方をしっかり持ち、人生の節目では、親子でしっかり話し合う。 地域での行事、ボランティア活動等、親子での積極的な参加)のような取り組みを推進してみてもどうか。	男	50	以外						

番号	受付 月日	提出 方法	意見	男 女	年 代	教職員 かそれ 以外	子ども					参考
							幼	小	中	高	無	
41	7月18日		県教育委員会事務局や市町村教育長、校長の姿勢が変わらなければ、教育改革は進まない。 校長の給与は、職員の評価で。教員の評価は子どもたちが。上から下をではなく下から上への評価が正しく、学校をよくしていくと思う。 生徒が担任を選択する方法を取り入れる学校が、もっと多くなったらいいと思う。 この10年で、土佐の教育は改革どころか危機的状況である。先生も生徒も自分らしさを表現できなくなっている。県教育委員会は形ばかりを整えてよしとせず、もっと現実をダイナミックに改善していき本当に「子どもたちが主人公」の学校にするべく話し合っていたらいい。 教師の暴力は、絶対やめてほしい。 点数のみの序列化は、友達が競争相手としか見えなくなり、本当の人間関係が築けずまもなく、学級は楽しいものにはならぬだろうと危惧する。									
42	7月19日	郵便	基礎学力が定着していない。 保護者と教員とのコミュニケーションが不足している。	男	40	以外						
43	7月20日	郵便	土佐の教育改革はそれなりの成果はあがっていると思います。	男	70	以外						
44	7月20日	郵便	教育(学力向上)には、質と量の二面性があり、どんなに質を高める努力をしても、量のすべてをカバーするのは不可能である。週二日制を廃止して、月～金曜日は6時限、土曜日は4時限の授業時数を確保すべきです。できれば、祝日も授業をして、かわりに、春、夏、冬休みの学習課題を必要以上出さずに、普段の授業以外のものに目を向けるようにしてほしいと思う。	男	40	以外						
45	7月24日	郵便	寝や食生活指導は家庭がすべきことであって、学校に頼るのは、まちがいであると思う。 朝から、元気のない子どもが多いように思う。	女	50	以外						
46	7月24日	郵便	週二日制の学校生活や夏休みになるのが早くなったり、休みが多過ぎるように思います。クラブ活動も大切だが、先生と保護者が子どもたちの学力向上のためにどうすればよいかをもっと話し合うべきだと思います。	女	70	以外						
47	7月24日	郵便	あいさつができない、しない子どもが多くなっている。声をかけた時は、知らない人であっても、せめて、かえしてほしい。	男	70	以外						
48	7月24日	郵便	高知の子どもの学力は、全国レベルで比較しても、年々下がっているといわれているのをよく聞く。 ・子どもたちのための教育「学校づくり」等、議論をし、委員会、協議会を設置して改革を図っているが、物足りなさを感じる。これといった鮮烈な印象がない。	男	60	以外						
49	7月26日	郵便	昔から、高知県の子どもの学力は低いといわれていますが、原因は何なのでしょう？また、本当にそうなののでしょうか？ 基礎学力は生きていく力にもつながる大切なものです。家庭にも応援してもらい、繰り返し勉強させることが大事だと思います。 もしも問題こそ目をそむけずに、家庭、学校、地域の協力体制が重要だと思います。	女	60	以外						
50	7月26日	郵便	土佐の教育改革で中・高一貫教育の学校ができましたが、必要だったかの疑問を感じます。学校格差ができるのではと心配です。	女	60	以外						
51		郵便	教師自身が心のゆとりをもって、一人一人の子どもを大切にしてくわかっていけることが、子どもたちの学力向上に一番効果があがることにつながると思う。補習や授業の準備ができる対策がとれ、定期的な研修や研究授業などで授業の向上を図り、子どもたちに合った教育をしてほしい。	女	30	以外						
52		郵便	学校現場を見ていて、先生たちはすごくがんばって教え方も工夫していると思うが、ゆとりがなくて、疲れていると思う。 人々とのコミュニケーションがとれ、何がよくて何がいけないかを判断でき、自分で考えて行動できる力を子どもたちにつけることが大事だと思う。 自分たちの日常生活や社会が暮らしやすく、安心安全な世の中にするためには、どうしていくかを考えるための勉強をしているんだという意識を育ててほしい。 子どもたちの生活が不規則で、過保護、放任の家庭も多くなってきているように思う。	女	40	以外						
53	7月27日	郵便	保護者にとっては先生の当たりはずれに関心がある。 教育長のファンで、この教育長なら大丈夫と思っている。	女	40	以外						
54	7月28日	郵便	知的好奇心を持って、疑問を持つ考え方が大切である。そのような教育をめざしてもらいたい。	男	50	以外						
55	7月28日	郵便	土佐の教育は地域と家庭と学校の協力で成り立っている。 学力だけでなく、人との関わり、コミュニケーションが持てる人になってもらいたいと思う。	女	40	以外						
56	7月28日	郵便	犯罪の低年齢化の原因は、温かい家庭や友だちとの遊びの中から培われる「人の心」が育っていない面が多い。 開かれた学校づくりの中で、家庭の支援もできるのではないかとと思うが、申し訳程度に引き継がれて、成果の見られない現状ではないか。	女	60	以外						
57	7月28日	郵便	英語は小学校高学年からネイティブスピーカーによる学習をさせてもらいたい。 私高公低を是正し、ハイレベルな学校をつくってもらいたい。 食育に力を入れてほしい。 個性を尊重し、生涯学習を進めてもらいたい。	女	30	以外						

番号	受付 月日	提出 方法	意見	男 女	年 代	教職員 かそれ 以外	子ども					参考
							幼	小	中	高	無	
58	7月31日	郵便	公立高校での、校内暴力やいじめが全国レベルよりかなり高いのは、学力が追いつかず、非行や不登校に走るのではないかと思う。妊娠中絶率が高いということが一番気になる。 学力対策として中学校2年生ぐらいから進学コース、就職コースに分けて勉強するのも良い。 ・PTAの役員のなり手もなかなかいない。経済的に大変で、共働きも多くそんな暇もないということかも知れない。経済の活性化が必要である。 ・食育は大切である。もっと広めるべきだ。 ・勉学のみならずかしくならねば損をする。努力のすばらしさ、がまんの大切さ、基礎学力の大切さを県民に納得させる教育をする。	女	40	以外						
59	7月31日	郵便	高校進学率、国公立大学への進学者数増加を評価する。 ・複数教員による指導、少人数指導は全小中学校で実施し、徹底した基礎学力の定着をお願いしたい。これが不登校、中退、非行の防止につながる。 ・いじめの発生率が高いが、集団登校など縦割りのつながりを、地域住民に学校への関心を深めてもらう方法に活用してはどうか。	男	70	以外						
60	7月31日	郵便	教育の場に自己の思想を持ち込み、「平等」と格好をつけて、子どもの個性を伸ばさない。教組の根絶なくしては、土佐の教育は生き返れない。	女	70	以外						
61	7月31日	郵便	教員には一度社会人として教員以外の仕事をしてもらいたい。	男	30	以外						
62	7月31日	郵便	学ぶ楽しさを実感できる授業の実現を望む。 資料から県教委の大変な努力が理解できる。 近隣の小学校は小規模でも、校長のリーダーシップも良く、PTAの会長もしっかりして成果を上げている。一度お出かけいただきたい。	男	60	以外						
63	7月31日	郵便	30人学級を早期実現してほしい。 先生が多忙である。教育現場にゆとりを作ってほしい。 我が子が卒業すれば教育の問題は終わりではない。開かれた学校づくりを県民共有のものにしてほしい。	女	60	以外						
64	7月31日	郵便	登校拒否の原因には友だち関係のトラブルが多いのではないかいじめへの対応として、日々の事柄をはなせる先生の存在が必要である。	女	40	以外		小	中			
65	7月31日	郵便	頭でっかちにならないように、人間性を養うために、体験活動をさせてもらいたい。 先生には個性があって良い。「恩師」になってもらいたい。 私は豊かな心を育む教育のために、あいさつ運動をする。高齢者をもっと活用してもらいたい。	男	70	以外						
66	7月31日	郵便	反復学習をしてもらいたい。 学力低下は土曜休日の結果だ。 先生にも完璧ではない。あまりがんびりすぎないように。 大切なのは教える技術、次は子どもを見ようとする力である。	女	40	以外						
67	7月31日	郵便	私立と格差のないように公立学校の授業を充実してほしい。 英語よりもまず日本語の基礎学力を向上させてもらいたい。 教職員は、自主企画研修などで指導力の向上を。	男	50	以外						
68	7月31日	郵便	・子どもたちが主人公」という言葉に違和感を感じる。 敗戦によりアメリカから入ってきた個人主義が、自分勝手に自分さえ良ければよいという方向へ進んだ。 ・アメリカの民主主義はキリスト教と表裏一体である。 ・日本に、世界に羽ばたける人材の育成が必要である。	男	70	以外						
69	8月1日	郵便	就学前の「見る、聞く、感じる、話す」を育てないと学力は身につかない。 ・豊かな心」を育てるためには、幼いころからすぐれた芸術や読書に親しむこと。 情報を受ける側のリテラシーも大切であるが、送り出す側のモラルも問われるべきだ。	女	60	以外						
70	8月1日	郵便	基礎的な家庭教育が欠如している感がある。 親子の会話、食事の大切さを認識しなくてはならない。	男	70	以外						
71	8月2日	郵便	・自然をいかした体験学習を進めてほしい。 ・みそ汁づくりなどは、教科書からだけでは体験を活用したうえで、学力向上対策になっていていいと思った。 教員の資質にもまだまだ問題はあり、教委の古い固いシステムもどんどん変えたら良い。	女	40	以外						
72	8月2日	郵便	社会教育の活動に子どもたちと教員が参加するシステムを考えてはどうか。 教室に社会人やお年寄りの講師を呼ぶシステムは学校中心主義ではないか。 創知の杜構想について 寄宿舎生活では親子のふれあいの面から問題がある。 ・退職後も意欲的に活動できる60歳など」を募れるのか疑問である。 子どもと意欲的に交流する人には訓練が必要である。 ・エリート教育にならないように配慮すべき。	男	50	以外						牧野植 物園ボ ラン ティア

番号	受付 月日	提出 方法	意見	男 女	年 代	教職員 かそれ 以外	子ども					参考
							幼	小	中	高	無	
73	8月2日	郵便	土佐の教育改革の成果は知らなかった。10年間の着実な取り組みは評価できる。 学力向上といじめ(特に高校でこんなに多いのか)などまだまだ課題が多い。 保護者向け報告会を実施してほしい。 教員のメンタルヘルス対策を進めてもらいたい。 人事評価の給与へのリンクは慎重にしてほしい。 民間人校長の評価はどうだろう 就学前教育のためには、高知ならではの遊んで学ぶプログラムを望む。 ・30人学級は早期に全校に広げてほしい。 小中高大の縦の連携を強化してほしい。 演劇、映画、音楽など芸術にふれる機会を確保してほしい。 ・ピア・カウンセリングを強化してほしい。 豊かな自然や県民性などすぐれた環境を生かした、たくましく生きる力を獲得できる教育を進めてほしい。 海外でも活躍できる人材づくりをしてほしい。	男	40	以外						
74	8月3日	郵便	教育は教員と家庭と一体になって実る。 教育改革の成果と課題については同感であるが、個々の問題解決にはまだまだの感がある。 開かれた学校づくりは進んでいる。 感性豊かな心を育む教育こそ、人づくり町づくりの基本である。 全人格的教育をしてもらいたい。	女	70	以外						無
75	8月3日	郵便	教職員が個性を生かしながら、組織の一員としての力を発揮することが必要。 教職員は教育公務員としての自覚とともに、感性と専門性を磨き県民の信頼を得ること。 学校は組織的に柔軟な対応を心がけ、保護者 地域と一体となって魅力ある学校づくりに努めることが求められる。 基礎学力の上に、応用発展的な学習が大切である。	女	40	以外						
76	8月3日	郵便	あいさつ運動は、昔もやっていて変化がない。 みそ汁キャンペーンもその場しのぎの応急措置で、食育についての改善がクリアされていない。	男	30	以外						
77	8月3日	郵便	校長が変われば学校が変わる。荒れた学校が見事によみがえった。	男	50	以外						
78	8月3日	郵便	学力向上のためには質の高い教員を確保することが大切。 資質に欠ける教員は早急にやめてもらいたい。あいさつできない教員が目立つ。 若い世代には読解力に欠けるケースが目立つ。 不登校対策に積極的取り組みが欠けているのではないか。	男	60	以外						
79	8月7日	郵便	家庭の教育力の欠如のために、本来の役割を果たしていない(特に食事など生活習慣)。学校と地域の両方から家庭に向けて啓発するべきだ。 佐川の地域住民が授業に入り支援するティーチャーズヘルパーは成果が上がっている。ただし、事故などへの対応もあり、ヘルパーに対しては最低限の保障が必要ではないか。	女	40	以外						
80	6月2日	電子メール	学力の向上には本人に目標、目的意識が大切。	男	50	以外						ネット ワーク以
81	6月22日	電子メール	体罰を無くしてほしい。	女	30	以外						
82	6月27日	電子メール	教員のえこひいきをやめさせてもらいたい。	男	50	以外						
83	6月28日	電子メール	教員の資質 指導力には問題がある。 研修の内容をみなおすべきである。 教員の研修に対する態度に疑問を感じたこともある。	女		以外						マス コミ関 係者
84	6月30日	電子メール	学力の向上より、自己表現力やコミュニケーション力の育成などを身につけさせてほしい。 子どもたちの家庭環境、学校環境についてのカウンセリングシステムを作り、子どもの人権を大切に、健やかな人格形成を進めるような環境づくりが必要。	男	50	以外						
85	8月28日	郵便	改革の小手先の手法(教員数増、指導主事の派遣、中高一貫校)では学力は向上しない。 中高一貫の進学支援専門の学校を作ることを提言する。	男								
86	8月28日	郵便	戦後の教師のサラリーマン化は残念である。厳しい職業倫理感を導入して質の高い教員を育てることが重要である。	男	60	以外						
87	8月30日	郵便	学校の先生は、子どもたちの6-7割理解していれば良いので、後は塾で」といふ印象で、現場では学力向上は期待薄だ。繰り返し学習で学力の低い子を伸ばしてもらいたい。学校でのテストやプリントも手作りのものは減っている。	女	40	以外						

番号	受付 月日	提出 方法	意見	男 女	年 代	教職員 かそれ 以外	子ども					参考
							幼	小	中	高	無	
88	8月31日	電 子 メ ール	小規模の高校にも女性の体育教員を赴任させてもらいたい。 育成型人事評価システムの評価には、コーチングの知識が必要である。 自然体験の時間が不足している。 家庭の教育力を再生するならば、ほとんど平日は子どもと接することができないような社会の現状、勤務状況に問題がある。フレックスタイムなど週休2日制の導入のような抜本的な施策の導入が必要。	男	40	以外						
89	8月31日	電 子 メ ール	学力＝得点力という発想は危険である。 従来の価値基準にとらわれず「土佐の豊かさ」や「土佐の発展」を模索すれば社会の繁栄と子どもたちの幸福につながる。 一時的な学力ではなく、学びを生かす喜びを知り、持続発展続ける「生きた学力」を育む必要がある。 県内3校の4年生大学が志を同じにする必要がある。 高知大学付属校を県内教育課程研究の中核とし、教育実習のモデル校としてこ入れをすべきだ。 予算に限界のある、相対的な人事の評価システムは、教員間の密接な協力関係を阻害するのではないか。「成功するのは自分一人が良い」との意識を生み出す危険を内包している。 高齢化は人材の宝庫である。 家庭の団らんが大切である。 学校は家庭、地域との連携のために「何を理解してほしいのか」をしっかりとプレゼンスすべきである。	男	30	以外						
90	8月31日	郵 便	戦後教育行政には、教職員組合の横暴と真の教育者を採用したのかなどの反省点がある。 今は児童、生徒をまとめて「子ども」と呼ぶが、生徒の人格形成からも抵抗を感じる。 平仮名、片仮名は小学校2年生終了までに教えてもらいたい。	男	70 歳 以上	以外						
91	8月31日	郵 便	土佐の教育改革に望むのは心の教育であり、生命の教育である。 親子の調和した教育を推進してもらいたい。 愛と感謝の心を大切に教育をしてもらいたい。	男								

県民からのパブリックコメント分類表

項目	細目	県民の声ネットワーク	一般県民	計	計	%		
学力向上対策	授業改善	3		3	40	18.9%		
	基礎学力向上	14	2	16				
	読み書き計算・反復学習・加力学習	3		3				
	長所を伸ばす教育・個に応じた対応	2		2				
	保小中高大連携	3		3				
	就学前教育の充実	2		2				
	学習意欲の向上・家庭学習の習慣化	1		1				
	英語・国際理解教育	4		4				
	30人学級など教育配置の充実	6		6				
教職員の資質・指導力の向上	資質指導力向上	12	5	17	33	15.6%		
	意識改革	1		1				
	研修の充実	1	2	3				
	教員の多忙さ	10		10				
	教員選抜制の導入	1		1				
	教職員研修の充実	1		1				
特別支援教育	理解の促進	1		1	1	0.5%		
豊かな心	いじめ・不登校などの教育課題への対応	9	1	10	46	21.7%		
	豊かな心・健やかな心を育む教育	10	1	11				
	体験活動などによる社会性の涵養	11	2	13				
	道徳教育や心の教育の充実	6		6				
	読書活動推進	1		1				
	人権教育・同和教育	2		2				
	伝統や文化の継承・地域学習	1		1				
	忍耐力・意志の強さ・自立心	2		2				
学校・家庭・地域の教育力の向上	保護者の意識改革・家庭の教育力向上	11	3	14	28	13.2%		
	社会教育の充実	1		1				
	地域の教育力の活用	2		2				
	基本的な生活習慣・食生活定着	8		8				
	安全対策	2		2				
	子ども会・PTA・青年団など社会教育団体の活性化	1		1				
学校・家庭・地域の連携の強化	地域ぐるみ教育	9		9	26	12.3%		
	開かれた学校づくり	5	1	6				
	学校・家庭・地域の連携	6		6				
	校長のリーダーシップと校内組織の整備	4		4				
	学力の到達度など情報公開	1		1				
その他	学校統合など切磋・琢磨できる環境づくり	1		1	38	17.9%		
	体力の向上	1		1				
	自治体あげでの取り組み	1		1				
	信頼される公教育	1	1	2				
	学校の特色化	2		2				
	生きる力の育成	1		1				
	5日制への対応	3		3				
	教委事務局の取り組み強化	4		4				
	その他							
	かなりのエネルギーが費やされており、成果が上がっている。自信を持って改革を進めてほしい。							
	政治が教育に向き合っていることが良く分かった。今後の継続アピールしてもらいたい。							
	改革は進んでいない。結果が中途半端。集中的に取り組むべき。教育改革の県民的理解や広がり疑問。							
	・3本柱は良かったが、6本になり空回りした感じがする。							
	高校の特色化は進んだが、小中の動きは見えない。							
地域教育指導主事がなくなったのは残念								
教育予算を減少させないでほしい。								
中高一貫教育の県立学校の必要性に疑問を感じる。								
私高公低を克服し、ハイレベルな学校を作してほしい。								
学力低下は土曜休日が原因だ。	22	1	23					
英語よりもまず日本語の基礎学力を向上させてほしい。								
・子どもたちが主人公」という言葉に違和感(個人主義)を感じる。								
情報を送り出す側のモラルも問われる。								
社会教育に子どもと教員が参加するシステムを考えてはどうか。								
教員のメンタルヘルス対策を進めてほしい。								
・民間人校長への評価はどうだろう								
・家庭環境や学校環境についてのカウンセリングシステムを作るべきだ。								
・佐川のティーチャーズヘルパーには何らかの保障が必要ではないか。								
改革は進んでいるが、個々の問題解決はまだまだ。								
・創知の杜構想には、親子のふれあいなどの面で問題がある。								
中高一貫の進学支援専門の学校をつくることを提案する。								
合計		193	19	212	212			

4 元教員の評価

(1) 前高知市立大津小学校長 安藤 厚子

私と土佐の教育改革

世紀末から新世紀をまたぐ歴史的に記念すべき2000年度に大津小学校に赴任。子どもたちは積極的で活力に溢れていたが、感情の起伏が激しすぎたり、学びから逃避するなど、情緒の不安定なようすが気がかりでたまらなかった。

校区の家庭は、核家族が多く、毎日が気忙しく過ぎ、子どもに寄り添って話を聞いたり、本を読んでやる心のゆとりがないなど、子育てに悩んでいる保護者も少なくない。老朽化した校舎には、'98豪雨の爪痕が随所に見られ、「落ち着いた学習環境づくり」と学び方を学ばせる「必要性を痛感。土佐弁の「これがたまるか。なんぼいうたち、ほっちょかれん。何とかせんと。」と志気に燃えた。

幸いに大津地域は、史跡や自然が豊かで、災害を乗り越えた面倒見のよいお年寄りがたくさんいるので、地域ぐるみの教育をするには、ぴったりのところである。折しも、子ども読書年で、'02年の総合的な学習の時間の本格実施に向けての準備中。そこで、教科・領域等を支える学校図書館を充実し、子どもと本や学びをつなぐ・利用指導や読書の習慣化活動を推進していけば、子どもたちは、美しいものやすばらしいものに感動する心、相手の良さを認めたり、生命を尊重する心が育ち、人への思いやりの心を育むことができるであろう。たくさんの人と交流することでコミュニケーション能力も高まるにちがいない。」と仮説を立てた。

<やわらかあたま あったかハート 夢を育む>を学校経営方針とし、社会への窓口である学校図書館を核として、学校・家庭・地域が連携する「開かれた学校づくり」の推進に取り組むことにした。全教職員が知恵を結集し、地域との交流や専門家による学びを取り入れた「地域が教室 学びがいっぱい」の特色ある教育過程が編成された。学校図書館活動を基盤とする温もりのある学校を目指し、大津小の教育改革のスタートである。「子どもでにぎわう学校図書館」を夢に描いての仕事は楽しい。

まず、選書改革。従来の、学級文庫用図書購入から、学校図書館用蔵書購入に変更。書店の協力で、1クラス1時間、全クラスの子どもによる選書会を開催。初めての試みに、今まで本など見向きもしなかった6年男児が、好きな本に出会い読みふける姿は、書店の人をも感動させた。店長さんが、子どもと本の出会いを重視し、一日中ていねいに子どもと接し、本と出会う様子をよく観察してくれたからこそである。ただ本を売るという行為だけでなく、細やかな配慮のある選書会で、教師も多くのことを学ぶことができた。

早速、図書館の鍵を撤去し、入り口や窓を常時開放。それだけで、いつでも誰でも入ることのできる開かれた学校図書館に変身。高い書棚を下ろし、子どもの目線の書架の配置等の工夫もする。

極め付けは、心の居場所づくり。木の香も新しく天然の温もり満点の、高知県産杉材の机・椅子・大型絵本書架などの設置。三本足の椅子は、コロコロ揺すって楽しいし、切り株

や書棚の上の大きな木の枝は、森の中の雰囲気醸してここちよい。

さらに LAN接続・ノートパソコン設置・図書館ネットワーク加入(学校間相互貸借実施)、テレビやDVD・ビデオも設置。学習情報センターとして機能するようにした。入って来た子どもたちの、歓声と輝く笑顔が記憶に新しい。

2003年の、司書教諭配置については、「配置後の高知県の司書教諭の活動状況は？」と、問われても恥じないように、できるだけ専任に近い活動ができるように、指導工夫改善担当教員を当てた。「図書館活動のできる授業がしたい。」と、目を輝かせる積極的な司書教諭が誕生した。

朝や昼の全校読書活動推進・各学年の多様な図書館活動(読書・ブックトーク 調べ学習等)や情報教育・生活科や総合的な学習の時間の工夫などに、専門性を発揮する。被災した豪雨の体験を学びにつなぎ、<災害に強い町づくりをしよう>という、地域を巻き込んだ『大津小の防災学習』を立ち上げた。プロジェクト学習による成果物として、6年生の『防災パンフレット』が完成。全校家庭や地域に配布し喜ばれた。このパンフレットは、学校図書館の防災コーナーに置かれ、代々の6年生が学習の資料としても利用している。

情報を収集し、学んだことをまとめて、学校から社会に発信するこの学習は、「ごっこ遊び」ではない。自分達の生活に直結する貴重な体験として、生涯心に残るであろう子どもたちの学びは、毎回各自が活動を記録し、自己評価も入れてファイルに閉じる。同じ班の班員からは、同志として学んだ感想をもらう。学習がゴールに達した時、相当分厚くなったファイルをもとに、子ども一人ひとりが、活動を振り返り、自分の成長した部分を見付けるので、子どもの自尊心や自信の高揚につながった。

学校が意欲的に取り組み、情報を発信していると、地域や校区外の方から、支援提供の声かけをしてくださるようになり、学年の取り組みが重なる日には、40人を上回る方が来校し、授業を支援してくださることもある。

読書活動グループ「おひさま」も誕生し、朝の読書タイムの読み聞かせ・蔵書のデータベース化・掲示板の装飾・ストーリーテリング・パネルシアターなど豊かな読書活動が展開されている。PTAの費用で、週数時間の図書館補助員を付けてくれたことも躍進的なことである。

子どもに寄り添う活動は、あらゆる内容に及び、若い方からお年寄りまで、学校全体が大きな家族のような触れ合いができ、さまざまな人間関係がくり広げられた。読書活動の一環として、ホロコーストからの生還者「ジョージ・ブレイジー氏」をカナダから招いて交流できたことは、教育を社会の各方面から支えていただいた歴史的感動体験と言っても過言ではない。私自身鳥肌立つのを覚えた。教職員は、子どもの成長状況を把握し、激励や指導助言をし、自分自身も共に成長し続けている。先生のお勧め本の紹介、読み聞かせ、読書感想文指導等、あらゆる分野に挑戦し、苦手意識が減少しているのが嬉しい。

これまで、余り学校と密接な交わりを持たなかった保護者も、行事に参加したり役員を引き受けてくれるようになった。読みたい本を子どもを通じて借りたり、家庭での読書に広がりもでてきている。

地域の方は、子どもたちが声をかけてくれると喜んでくださったり、退職後の生きがいに

と、全学年のストーリーテリングを続けてくれている。「おひさま」の活躍は、報道にも取り上げられ、他の地域に実践発表に出向いたり、見学者を迎えたりして、読書活動の啓発に寄与している。

このように、子ども達は、たくさんの方の愛情を受け、本の好きな子が増えてきた。朝の読書などは、教師がいなくても自然に読み始める。また、面白い本や、自分よりレベルの高い本、分厚い本に挑戦しようとする意気込みが見えてきた。本を読む子が減少している昨今、他校から転任してきた教師が不思議がるほど、読書が生活の一部になりつつある。

また、大人でもたじろぐ大きな舞台上、堂々とプレゼンテーション力を発揮する子どもも増えてきた。スポーツで、全国制覇を目指して中学の進路を考え、現実に達成した子どももいる。

5年の歳月をかけ、大津小の図書館が「森の図書館」として「心のオアシス・読書センター・学習センター」として機能するように生まれ変わり、外部の方が参入する授業展開が多くなると共に、学校が地域に開かれ、「学び舎」として落ち着きもでてきた。

私にとっての土佐の教育改革は、「子どもが、好きな本や、すてきな大人に出会い、自分の未来に夢をもつ」種を蒔くことであった。読む力や書く力、物事に怯まず挑戦する力などは、一朝一夕では育たない。毎日の充実した学習を継続していくことの重要性を、子どもが身をもって示してくれた。

困難を乗り越え仲間と励まし合って研鑽した教職員と、ご指導ご協力くださった行政・大学や各種の専門家、各種団体、地域家庭等、数多くの方々に深謝申し上げている。

(2) 前香南市立香我美中学校 別役茂子

私と土佐の教育改革

1 はじめに

「子どもたちが主人公」を合い言葉にスタートした「土佐の教育改革」も、本年度「第 1 期土佐の教育改革」「第 2 期土佐の教育改革」の 10年間の総括の年である。

土佐の教育改革の取り組みは、平成 9 年度から平成 17 年度まで香美市物部町と香南市香我美町の中学校での 9年間の取り組みであったが、ひたすら子どもたちの幸せを願い、教育愛溢れた教職員と共に積極的に推進することができたと思う。

「心豊かでたくましく創造性に満ちた子どもたちの育成」を基本理念とする土佐の教育改革の取り組みは、家庭や地域との連携を図りながら「開かれた学校づくり」「信頼される学校づくり」等の取り組みにより着実に変わってきたと学校評価等から実感している。

社会の変化等子どもたちを取りまく環境は益々厳しくなっているが、10年間の土佐の教育改革の特色ある取り組みを生かし、家庭の教育力、地域の教育力をさらに高め、生きる力を持った元気な子どもたちを育ててほしいと願っている。

2 教育改革の取り組みから

第 期の取り組みの物部町では、「小・中連携教育推進事業」「小・中連携教育による家庭学習に関する研究推進事業」の指定後も継続して小・中の連携を図り、課題を共有し、授業交流、行事交流等を積極的に推進し、学力の定着・向上を図ることができた。

地域の実態に即し、子どもたち一人ひとりに行き届いた教育を進めると共に、自主的、意欲的に学び合い、支え合う学級づくり、授業づくり、行事づくり等により、心豊かな子どもたちの育成を図ることができた。教職員、保護者、地域が一体となり、子どもたちの幸せを願う地域ぐるみの取り組みが活力ある学校づくりになったと思う。

平成 9年度から「中学校と高等学校が 6 年間を通じた系統的な連携教育を展開し、地域の特色に立脚した教育を行うと共に、学力向上や個に応じた教育活動を推進することにより、地域に貢献する人材を育成し、地域の活性化を図る」ことを基本方針とする「中・高連携教育推進事業」に取り組み、授業交流、部活動交流、行事交流等の連携を深めた。小・中・高の連携した地域ぐるみの取り組みが、活力ある学校づくりになったと思う。

第 期の取り組みの香我美町では、「町一貫教育推進構想」として発達段階を考えた教育の推進を図るため、保・幼・小・中連携した教育改革に地域ぐるみで取り組んでいた。平成 14年度、15年度は、「子どもの心に響く道徳教育推進事業」の文部科学省の指定を受け、子どもの心に響く教材の活用、開発に取り組むと共に、地域ぐるみ道徳参観日等家庭や地域と連携を図りながら子どもたちの心に響く道徳教育の取り組みができた。平成 16年度は、教職員の資質・指導力の向上を図る「職業能力育成型人事評価制度試行校」として、子どもたちが主人公である学校づくり、保護者・地域から信頼される学校づくりに努めた。

新しい人事評価制度は、教職員の職業能力の育成、学校組織の活性化を目的とする制度である。P D C A サイクル機能が発揮できる活力ある学校経営に努めた。

平成 17年度は、「学力向上フロンティア校」の県指定を受け、教育改革を推進した。学力向上フロンティア取り組み宣言 10 を掲げ、「挨拶・掃除・安全の基本的な生活習慣の徹底」「朝の読書」「香我美タイムによる基礎・基本の徹底」「週 30 時間授業」「加力学習」「家庭学習キャンペーン」等による学力定着・向上に向けての教職員のねばり強い取り組みが、学習環境を定着させ、全員希望する進路保障を達成することができたことは大きな成果であると思う。

土佐の教育改革の取り組みを通して「子どもたちが学校の主人公」開かれた学校づくり、「授業評価」「学校評価」等教育改革への意識改革は、着実にできてきたと思う。また、「職業能力育成型人事評価」の取り組みから、教職員の職業能力は、着実に育まれている。教育活動については、わかる授業づくり、学裁の時間等を活用した基礎基本の繰り返し指導、相互の授業研究による指導法の工夫・改善が日々熱心にされている。

「いつ学校に行っても子どもたちの挨拶がよくできる。感心するほど対応がよく（気持ちが良い。）」「落ち着いて集中力のある子どもが増えている。学校が充実している。」等の外部評価は取り組みの成果である。子どもたちにとって学習したくなる学校、保護者・地域から信頼される学校づくりが求められる。今後も地域の一員として支援していきたい。

3 終わりに～子どもたちの幸せを願って

ほとんどの教職員は、子どもたちの幸せを願い、組織の一員として、日々懸命に取り組んでいる。「一人ひとりの生徒が個性を發揮し、主体的に活動できる学校」「一人ひとりの教職員が専門性を發揮し、組織として機能する学校」保護者 地域との信頼関係を深め、共に歩む学校」づくりを目標に取り組んでいる。

子どもたちの幸せを願い、あたりまえのことがあたりまえにできる基本的な生活習慣の定着を図り、熱心に教育改革を推進している教職員と取り組むことができたことに感謝したい。土佐の教育改革が、郷土を愛し世界にはばたく土佐の子どもたちのために県民地域ぐるみの取り組みとなり、継続した取り組みができることを願っている。

(3) 前県立高知追手前高等学校長 小島一久

土佐の教育改革の検証

平成9年度から始めた土佐の教育改革は平成13年に5年間の総括を行い「第二期の土佐の教育改革を考える会」の提言を受けて平成14年度に再スタートした。私は平成9年度のスタート時からかわり平成14年度に高知追手高等学校に異動し16年度に退職するまで教育行政5年間と学校3年間の8年間について主として検証する。出来るだけ現在の学校現場やPTA関係者の意見も聞いてみたが、正確なデータに基づく検証になっていない部分もあることをご理解願いたい。

子どもたちの学力向上への取り組み

学力とは、「生きる力」を育むための「確かな学力」と定義して考察する。

高等学校における学力向上への取り組みは各学校それぞれ在学する生徒の状況が異なるため、その対応策は様々な方策があるが、概ね ～ についていかにそれぞれの学校がアイデアを出し如何に具体的に実践するかによって成果が生まれる。

生徒の将来に対する人間像の確立

- ア 授業の充実（楽しいわかる授業の実践・注「楽しい」と「楽」と混同しないことが重要）
- イ 授業内容のアップ（生徒の能力を教員の固定観念で見ることなく可能性を信じて内容を少しでもあげる意識が必要）
- ウ 生徒の個性・能力を見つけ出し挑戦する意欲を喚起（生徒の個性・能力は挑戦し失敗・成功を繰り返す中で発見できる。）
- エ 生徒が自ら自分の将来に夢を描くことが出来るように人生観、職業観を持てる材料を提供し、自ら体験し、挑戦することを支援する。

【検証】

わかる楽しい授業について、教員の使命は、わかる授業を展開し子どもたちの学力向上を実現するといっても過言でない。そのためには、その学校の子どもたちの学力の状況を正確に把握し分析した上で、それ

それぞれの学校の学力到達目標を明確にし、実際の授業に即した授業計画やシラバスの作成、授業実践の公開、授業評価、教員間の議論、結果の評価、改善措置等が実施されなければならない。学校訪問を通じて感じたことや耳にする話などから判断すると

1 ア、イに関して

- (1) 小学校では授業改善への様々な営みや授業の公開等一定前進している。今後は学習到達度テスト等資料を保護者に公開することなどにより、より積極的な取り組みを望む
- (2) 中学校では教員それぞれの教員の努力は評価したいが、まだ、多くの学校で指導困難な子どもたちの対応のために時間を費やし、授業の改善までには至っていない。また、生徒が私立学校に抜けるからという意識を払拭しプロ意識を持って前例踏襲主義を排して取り組んで欲しい。
- (3) 高等学校では、各学校それぞれ生徒の実態は異なり、画一的な取り組みでなく、実態に即した方策が必要である。現段階では授業改善の方策や結果に格差が大きい。子どもたちの将来の夢実現に向けて、それぞれの学校の生徒の実態を正確に把握し、特色のある取り組みを期待する。そのためには、教育委員会の弾力的な発想、支援が必要である。管理職特に校長は、日和見でなく発想力、実践力の豊かなものの登用を望む。

2 ウ、エに関して

- (1) 土佐の教育改革が始まり、地域教育推進協議会を中心に企画し実践した、須崎市内の小中学校の地域の様々な職業の体験活動は県下一円に拡大し、子どもたちが地域の産業に興味関心を示すとともに、自分自身の将来への展望を考える上で大きな役割を果たしている。最近では地域ごとよりも学校単位で総合的な学習の時間等を活用して、恒常的な形で受け継がれている。
- (2) 高等学校でもこれまで専門高校を中心に実施されていたインターンシップに加えて普通高校でもキャリア教育として、実施する学校が増加している。今後は、キャリア教育の実践を通じて、生徒間の議論や作文活動等を通じ、書く、話す、議論する能力を培い、生徒の将来への夢を持たせることによりモチベーションを高めて楽しい学校づくりに活用して欲しい。

教員の教育専門家としてのプロ意識の醸成

教員という職業に誇りと責任を持ち、日頃から研鑽に励み指導力の向上に努め「決して生徒の責任」に帰することなく、他の教職員と協働し所期の目標達成に努力するプロ意識が不可欠である。

【検証】

県立・公立を問わず、校長はじめ教員の意識の中には(時には言葉に出てくる)学力問題を論ずるときに、「いくら指導しても子どもたちが勉強しない」と発言する者が多い。また、県教育委員会の会議でも中学校の

学力問題を説明するとき中学校の学力の低い原因として「私立学校へ抜けるから」を挙げる場合がある。勿論本県は、私立学校に入学する生徒の割合が多く、困難な教育を強いられている現実は否定できないが、教育の専門家としては情けない話である。こうした教育の専門家としての誇りや責任を放棄し、他人に責任を転嫁する意識が多くの教員、学校に存在している

保護者・地域・校友等関係者の理解・協力

学校の教育目標、方針に対して情報提供を行い、理解・協力のもと学校・保護者・生徒の三者が一体となった学力向上への取り組みが必要である。

【検証】

学校の教育目標は、学校の教職員の願いであると同時に、保護者・子ども達の願いでもある。したがって、学校の教育目標や方針は、積極的に保護者や子どもたちそして地域の方々に情報提供し、ともに生徒を育てる教育風土作りを展開してきた。土佐の教育改革発足の平成9年頃と比較してみると隔世の感がある。また、土佐の教育改革が全国的な動きに大きな影響を与え、現在では全国的なものとなっている。こうした点でも貢献度は大きい。

ただ、最近気になることは、学校長はじめ教職員が保護者や外部の声に神経質になり過ぎ、教育の本来の姿から逸脱する傾向があるとの声があることである。

幼稚園・保育園・小学校・中学校及び高等学校との連携協力、高等学校と大学の連携教育の原点は幼児期にある。基本的な生活習慣や学習習慣、食習慣等の確立が学力向上の大きな要素であるとの視点から、各校種が互いに連携しながら、系統的な教育を展開することが必要である。

【検証】

第一期の土佐の教育改革では、幼稚園・保育所と小学校の連携が不十分であることから、第二期の土佐の教育改革ではこの点を重点的に取り組むことになっていたはずだが、……市町村単位で、幼・保・小・中の連携の組織化を行い、3歳児あたりから、子どもの育て方、躰のあり方、基本的な生活習慣、食習慣、基礎体力、学習習慣等保護者の意識改革を徹底的に議論し、小学校、中学校との一貫性のある教育を展開するというねらいについて現状はどうか、現在の仕事の関係で小学校・中学校を訪問する機会があるが、県下的に十分な取り組みが出来ていると思えない。

ただ、以下のような点で改善点が見られる。

- 1 その必要性は各学校や保護者とも感じていることや、市町村の中には、南国市や土佐山田町を中心に「食に関する教育」を通じて幼・保・小や地域との連携強化によりしっかりした幼少期の教育を展開しているところもあることは評価できる。

- 2 幼保支援課を中心に幼稚園と保育園の一元化や保育士、幼稚園教員の研修体制の強化等の取り組みが始まったのは明るい兆しである。保育所と幼稚園の制度の違いによる障壁は大きい、国の施策に期待するだけでなく、本県独自の取り組みを展開して欲しい。
土佐の教育改革終了後も、特に幼稚園・保育所・小学校の連携教育は重点的に取り組んで欲しい。
- 3 一部の市町村では小学校・中学校の一貫校を設立しているが、子ども数の減少が続く中で多くの市町村で推進して欲しい。
- 4 高等学校と大学の連携教育は、大学と高校の教員の意識の違いが大きいなど課題は大きい、一定前進している。生徒にとって効果的な方法を研究してさらに推進して欲しい。
- 5 PTA組織で幼稚園・保育園の保護者と県P連・高P連が同じ席に着き議論できる場が設定されたが、この組織は今後もさらに発展させ各市町村ごとに組織化し、取り組んで欲しい。

CRT等の学習到達度調査のデータの活用について

県下の各小学校・中学校で実施しているCRT等の学習到達度調査の保護者への公開を経て学力の課題を克服することが重要である。

【検証】

到達度把握テスト等を実施して10年間が経過したがそれによる効果はどうか。正直言って不十分といわざるを得ない。第二期の土佐の教育改革を議論した考える会でも到達度把握テストの活用について意見交換がされ、当時の小・中学校長会長が到達度把握テストについて、「公開する」との発言があり、県教育委員会の基本的な対応方針にも保護者に積極的に情報提供することを記しているが、現状はどうか。

第一期当時からすれば、市町村教育委員会が中学校からテストの結果を集め全体像を県教育委員会に報告し、県全体の結果は公表するなど一定の前進はあるが、各小・中学校で結果を保護者に情報提供し課題に対して対応策を実施している学校は一部に過ぎない。「情報提供している学校では、学校が現状と課題そして対応策を積極的に保護者に情報提供し協力を得て学力向上を実現している」こうしたことにより児童生徒ひいては教職員の意欲を高め、保護者との信頼関係を築くことになる。今後結果と課題への対応策の情報公開を積極的に進めて欲しい。

県教育委員会や市町村教育委員会ではそれぞれが県下全体、市町村全のテスト結果を受けて、具体的な対応策を実施することが必要である。結果の分析を行うだけでは意味がない。(30人学級の実現が方策というかもしれないが、これらは具体的な対応策とは言い難い)

先にも記したが、中学校の学力低下は「優秀な生徒が私立中学校に進学したから」という意識が教育委員会内にも学校にも多くあるが、教育の専門家としてプロ意識の欠如のなにもものでもない。この意識を払拭することが必要である。

教職員の資質・指導力の向上に関して

教育改革の大きな柱として教員の資質向上に欠かせない研修を体系化し、教育センター

の体制整備、さらには全国に先駆けて採用2年次に長期社会体験研修計画し実践してきたがその結果はどうかまた、採用や管理登用についても改善をかさねてきたがその結果はどうか検証する。

【検証】

1 研修の体系化 (初任者研修、5年次研修、10年次研修、15年次研修)

初任者研修

教特法で規定されている国定研修であり、法令規則の縛りを受けながらも本県特有の内容を取り入れるなど工夫して効果的なものとなっている。特に授業の公開に関する意識や自分の教科・校種以外の多くの教育内容や、教育以外の実践は効果的である。研修内容が盛りだくさんであるとの批判やマンネリ化しているとの批判はあるがより改善を重ねながら実施すればよい。

5年次研修は、教員経験の中で成長を促す段階であり必要であるが、例えば学校の実践と連動させて教科指導などに特化した教育技術の向上を目指すほうが効果的である。従って、センター研修以外の学校研修(小規模の学校は大規模校で実践する)を充実させる方向がよいのではないか。

10年次研修は学校規模の大小にもよるが、中堅教員として教科指導以外にホーム主任とか生徒、教務、進路指導等教育の領域分野に活躍の分野が広がる。センター研修で領域分野の基本を徹底的に学習し、学校の実践を重視した研修に工夫すればよい。

15年次研修

15年次になると、学校では中堅教員から幹部教員として学校運営の中心的な存在となる。そのため、学校運営に対する責任感、実践力、人間性、リーダー性が問われる立場にある。そのため、各教員が教育に対する理念や指導方法、対外的な対応、危機管理等しっかりした考え方を持つ必要がある。こうした視点を中心に研修を組み立てることが必要である。

現実に15年経験すると個々の教員の力量の格差が大きい状態が生じている。これらの原因は、学校での日々の実践の積み重ねの結果と言わざるを得ない。したがって、研修制度の枠組みの中に、学校の実践を重視した内容とすることが必要である。(すべてのセンター研修にいえることだが、学校あけて子どもに迷惑をかけるより、学校で子どもたちと向かい合った教育実践を重視することが必要)

その他

小中学校・高等学校のPTA役員が研修に参加しているが、研修内容が効果的であるか疑問視する意見や参加した保護者の意見に対する対応について、教育センターの姿勢に厳しい批判がある。教育センターの指導主事の工作在研修の企画運営を中心に指導力そのものの力量が不足しているとの声を聞く

2 長期社会体験研修

【検証】

長期社会体験研修は全国に先駆けて実施しその成果を受けて全国的な波及効果を及ぼした。そして「鉄は熱いうちに打て」の考えで採用2年目に行っていたが、実施後10年を経過しその効果が現れる段階となっている。研修効果が学校現場でどのように生かされているか、また、本人の教員としての成長に如何に寄与して

いるか検証の必要がある。

採用 2年目に実施することに関して意見があるが、ベストではないがベターな時期である。県下の多く企業や施設にお世話になり教育の一端を担っていただくこと自体にも意義があり、教員生活にとっても大きな財産となる。ただ、影の部分として半年間学校はなれることによる児童・生徒への影響があることは事実である。人事異動や 4月当初の組織作りの段階で十分に考慮し影響を出来るだけ少なくする工夫をすることが求められる。

また、研修期間を 1年間にして研修する人数を減らすなども研究してはどうか。研修後の本人の意識は大きく変化し学校しか経験のない教員にとっては効果的である。本県が大掛かりに実施したことにより、形は異なるが他県でも多く実施されている。研修等定数は国から貰っており、本県の財政負担も少なく、今後とも工夫を重ねながら継続実施して欲しい。

3 学校研修に関して

【検証】

学校内の研修は授業公開や授業評価等を中心に以前より活発になっている。授業公開を中心とした研究授業は、それぞれの教科の到達目標を明確にしたうえで実施すると指導力向上に効果的である。

指導力向上は、個々の教員が授業実践の中で目標を立て、日々改善していこうとする意欲によって実現できる。先輩が後輩を指導することや目標に向かって日々努力をしていく教員集団の雰囲気作りがカギを握っている。年次研修などでは、基本的な指導は教育センターで行い、学校の授業実践と連動させた研修体制を構築してはどうか。

4 管理職研修に関して

学校運営の責任者に対する研修、特に近い将来校長になる教頭に対して重点的に研修を実施したが、その研修の成果をについて検証する必要がある。(研修の内容、方法、講師等から検証)

【検証】

管理職の学校運営に関する力量は学校の命運を決することから、非常に重要で研修内容や指導者の質が問われる。

最近では、特に教頭研修に重点をおいているが、近い将来校長として活躍を期待している立場でありこの方向性は間違っていない。ただ、問題は、研修内容と指導者 講師の質の問題があるように思う。外部講師は新しい発想で取り組んである企業や大学の教員が多いが特定の講師に偏り参加者からは、不評の者もいる。また、職務に関する指導者は管理職として経験のない者では信頼されないばかりか、緊張感のないダラダラした研修になっているとの批判がある。

教頭は日々の職務実践の中色々な課題に直面しており、この課題に対して校長の指示 指導を受けるだけでなく自分自身のしっかりした考え方をもちて校長に意見を述べる事などして職務実践することが、力量を高めることになる。従って教育センターで研修するだけでなく、学校の実践と連動させ校長との連携を図りながら内容を充実することが望ましい。

5 管理職登用や広域交流人事、県外交流人事について

管理職登用方法の改善、事務所単位での人事異動特に高知市との人事交流や県外(広島 岐阜、香川、徳島、大阪)との交流人事は学校現場にどのような影響を及ぼしているか検証の必要がある。

【検証】

(1) 管理職登用

管理職の登用については、平成9年から、全管理職について、筆記と面接を行うことになった。面接では、外部の有識者を面接員として採用するなどの工夫を講じているが、いくら工夫しても面接員や選考にあたるものの力量が大きく左右する。

近年、県立学校においては、多様な生徒に対応するため、特色ある学校づくりが求められている。このため、自主的、自律的な学校運営が可能となるよう、学校長の裁量が拡大されてきている。このことは、学校組織において未だミドルリーダーの育成が十分でないことと相俟って、校長の力量如何によって、学校運営が大きく左右されることを意味しており、校長登用の重要性が増してきている。

さらに、激変する社会の変化と教育環境の悪化に対応し、自ら学校運営のビジョンを立て、教職員に対し指導力・統率力を発揮しつつ、その目標を達成することや、失敗を恐れずに、新たな課題や困難な課題にも常に意欲的に取り組むことが、校長には求められる。

しかるに、現在の制度のままでは、人はよいが、仲良しクラブをつくるだけで、自らビジョンを示し、改革を進めていく力量に欠ける者や、まじめではあるが、リスクを恐れずに、改革に挑戦する意欲に欠ける者など、校長としての総合的な力量に欠ける者が登用されていき、県立学校が地盤沈下をしていくのではないかと危惧している。こうした意見は現職校長や多くの会合で同様の意見が聞かれる。

教頭研修を充実するなど、力量のある校長候補を育成するとともに、登用に当たっては、校長と時間をかけて意見を聞くことや、校長登用後の学校運営の実践を第三者に評価してもらうなどのシステムが必要ではないか。

(2) 採用について

採用方法は全国的に見ても妥当な方法だと思う。人物重視の採用方針もまた妥当だと考える。ただし、最低限教科の指導力のないものはいくら人物が良くても子ども達からは信頼されないことを念頭に置いてもらいたい。また、面接員の資質の問題や面接技量についても真剣に検討する必要がある。

採用試験問題のミスについて、毎年同じような事を繰り返しているのは、県教育委員会に対する不信感を増幅するのみで、問題のミスが発生する原因の解明とチェック体制の充実をして欲しい。

(3) 人事異動について

人事異動は学校の目指す学校像に基づき適材適所に配置することであり、在職年数との関係は弾力的に扱うこと。

小中学校の人事異動に関して以前より広域的に行われるようになってきた。高知市と他の市町村の異動をさらに進める努力をして欲しい。

県外との人事交流は教員の意識改革や指導力向上に大きく貢献しておりさらに進

めて欲しい。

学校・家庭・地域の連携による教育力の向上

教育は、学校・家庭・地域社会がそれぞれの役割を果たしながら相互に連携し、社会全体として取り組んでいくことが極めて重要である。との基本的な考え方で取り組んできた。

学校・家庭・地域社会の相互に協力するシステムとして「開かれた学校づくり推進委員会」を各学校に「地域教育推進協議会」を各市町村単位で設置しているが、現状でシステムが如何に機能し、その成果が子どもたちに還元されているか検証する必要がある。

1 開かれた学校づくり推進委員会

土佐の教育改革が発足した平成9年度に各学校に組織され、当初は学校にはこうした外部の意見を取り入れることに対する抵抗も多く、教職員の意識改革等に苦労したが地道な話し合いで県下のほとんどの公立、県立学校で設置した。

内容もただ単なる相互の情報交換的なものから、学校行事や地域のイベント等の共催、学校施設の開放など比較的取り組みやすいものからはじめ、平成12年に「学校評議員制度」が設けられ、学校運営に関しても意見を述べるようになってきた。本県で取り組んだ土佐の教育改革が国を動かし、全国的な流れとなってきた。当初の意気込みと現状はどうか検証する必要がある。

【検証】

ほとんどの学校でこの組織を設置している。小中学校の場合には保護者・地域との連携は進んでいるが、県立学校の場合では保護者が広域的になるため形態が異なる。小中学校、県立を問わず学校と保護者・地域の方々の意見を学校運営に生かしていくという意識は浸透している。ただ、開かれた学校づくり推進委員会の会議の内容がマンネリ化してきたことや、委員の固定化、学校運営に関する意見があまり出ないなどの問題があり、開店休業の状態にある学校もあると聞く、現状を把握し打開策を考える必要がある。

地域教育推進協議会

学校単位の開かれた学校づくりに呼応して各市町村単位で相互に協力体制のシステムとして地域教育推進協議会が設置されたがそれらのコーディネーター役として「地域教育指導主事」が配置され、学校・保護者・地域社会の連携強化に大きな役割を果たしてきたが、現状はどうか、そして教育改革の精神が根付いているか検証する必要がある。（地域教育指導主事は文科省に対して、制度化を働きかけたが最後まで認められなかった。）

【検証】

第一期の時代と比較して地域教育指導主事の意識も職務内容も変化し発足当初の教育改革の精神を生かした取り組みが薄れているように思う。地域教育指導主事が教育改革の先導的な役割よりも市町村の教育委員会の職員としての職務を担っているように思う。地域教育推進協議会もこうした職務内容の変化に伴って本来の姿が変化している。来年度から地域教育指導主事も廃止となり、地域全体で協力して教育を進め

ていくという意識が薄れてくるのではないかと危惧している。廃止後の対策が必要ではないか。

障害児教育

障害児教育に関しては、平成9年の土佐の教育改革発足時に十分な対応が出来ていない面もあり、「高知県障害児教育振興対策協議会」での「意見のまとめ」をもとに対応してきた経緯がある。その結果の検証と最近の障害児教育をめぐる大きな変化である「特別支援教育」に対する方策等も含めて検証する必要がある。

障害児教育の啓発、交流の推進

障害児学級と障害児学校との連携強化に関して

障害児学校の進路指導について

【検証】

学校現場の調査が不十分で確たる検証ができないが、障害児教育から特別支援教育への移行について、学校と教育委員会の緊密な連携が必要である。

障害者に対する意識は以前に比べて理解が深まってきているが、これは教育改革の成果もあるが、社会全体の動きの影響が大きい。

ただ、最大の課題である進路保障については、生徒の障害の重度化の問題や就職難の時代であることから厳しい現実は変化していない。

豊かな心を育む教育の推進

「生きる力」を醸成する中で、豊かな心を育む教育活動は非常に重要な要素である。その成果について検証する。

芸術文化、自然にふれる機会の拡大、体験活動や読書活動の充実

道徳教育、人権教育の充実

生徒指導や教育相談に関する教職員の指導力の向上

ピアサポート活動等子ども同士の助け合い

【検証】

道徳教育に関して従来本県は不熱心との烙印を押されていたが、最近はその非行等の現状から学校自身がその必要性を感じるようになり熱心に取り組むようになってきた。また、地域の人材を活用した道徳教育も進みつつある。

人権教育は以前の同和教育中心から多く(七分野)の人権問題に取り組むようになってきたが、学校によって温度差があるように思う。

生徒指導のあり方や教育相談に関しても学校カウンセラーの配置や「不登校生徒」に対する対策が進むに従って教員の意識も高まり、本来の生徒指導のあり方に近づきつつある。ピアサポート活動等の取り組みも中学校を中心に熱心に取り組む学校が出てきたのは良い傾向だが、これからの感がある。

家庭・地域の教育力の再生・向上

1 子育ての相談体制、支援体制の確立

2 地域と連携した食に関する教育、スポーツ活動

3 地域ぐるみの教育の充実、地域における人材発掘とネットワークづくり

【検証】

1 子育ての相談体制、支援体制の確立

全国的に若い母親の子育てに関する問題が多く国の施策として取り上げられてきた。本県でも県全体の施策として取り組みが始まったが、相談員の育成にとどまらず保育所や幼稚園さらには小学校でも若い保護者への支援体制を充実する必要がある。これからさらに多くの関係機関が連携して充実していく必要がある。

2 地域と連携した食に関する教育、スポーツ

食に関する教育は南国市や土佐山田町等の市町村を中心に積極的に取り組み全国的にも大きな評価を受けている。食を基点として基本的な生活習慣、地域との連携、健康教育等と関連させながら、子どもたちの学力向上に貢献している。本県は食の指導者として栄養教諭の配置を全国に先駆けて行うなど積極姿勢は高く評価できる。

また、スポーツに関しては、本来の競技力の向上のみならず、健康維持の立場から多くの県民が参加できる「総合型地域スポーツクラブ」の設立が進んできた。これからの関係者の努力にかかっているが、県民総ぐるみのスポーツ活動が展開できるよう期待したい。

3 地域ぐるみの教育の充実、地域における人材発掘とネットワークづくり

地域の方々の教育に対する参加度は教育改革がスタート以来高まってきた。各学校や市町村教育委員会の地道な努力の成果である。ただ、県下全体のネットワーク化が不十分で、地域単位では活発であるが県下的な広がりとはなっていない今後の検討課題である。